



東京都八丈町勢要覧

はちじょう2025



HACHIJO 2025

目次

黒潮に浮かぶ島 八丈島	
八丈島の概要	P2
島への交通	P3
町のシンボル・交流	P4
わたしたちの「はちじょう」	
心と体を癒やす地球の恵み 温泉	P5
町の将来像	P6
まちづくりの基本方向	P7
主なできごと 2025	P9
台風第22号・第23号	P11
八丈島の自然	P12
八丈島の歴史と文化	P13
資料編	
地勢・気象・人口	P15
産業	P16
保健・福祉・医療	P19
教育・文化	P21
環境衛生	P23
運輸・通信・エネルギー	P24
建設	P25
住宅・治安	P26
財政	P27
行政	P29
議会	P30

八丈町歌（八丈町の歌）

作詞 保岡 直樹
作曲 高橋 一美

碧い宇宙に 抱かれて

恵み豊かな 海と島

燃える太陽 育むいのち

心やすらぐ わが郷土

希望と笑顔に 満ちあふれ

しあわせ彩る 八丈町よ

緑さわやか フェニックス

花は優美な ストレチア

紡ぐ歴史に 綾なす文化

まねく旅人 湯の香り

大空みあげて アカコッコ

平和を奏でる 八丈町よ

熱い鼓動を はずませて

夢が燦めく 風と波

ごらん元気に 羽ばたく魚

虹を描いて 春を呼ぶ

力を合わせて たくましく

未来へ躍進 八丈町よ



八丈島の概要

八丈島は東京の南方海上286kmに位置し、面積69.11km²のひょうたん型をした島です。地形的には富士火山帯に属する火山島であり、南東部を占める三原山(700.9m)と北西部を占める八丈富士(854.3m)から成り立っています。集落は、島の南東部に位置する三原山を中心とする檜立・中之郷・末吉で形成される坂上地域と、島の経済活動の中心地である大賀郷・三根で形成される坂下地域があります。

また八丈小島は、八丈島の北西9.5kmの海上にあり、島のほぼ中央にあたる大平山(616.8m)から成る面積3.07km²の火山島ですが、昭和44年6月に全員離島し、現在は無人島です。

気候は黒潮暖流の影響を強く受けるため、温暖で高温多湿、降雨量が多い海洋性気候です。人口は7,042人(令和2年国勢調査)で、産業は農業(花き観葉植物栽培)と沿岸漁業を基盤としています。商工では焼酎やくさや加工、伝統的工芸品の本場黄八丈織などのほか、各種の観光関連サービス業が中心となっています。



島への交通



全日空(ANA)
約55分



東海汽船
約10時間25分

出展：国土地理院地理院地図(白地図)を加工して作成

八丈島海路の沿革

1910(明治43)年	東京湾汽船会社と八丈島有志代表浮田鉄吉氏、山田喜代吉氏が毎月1回以上の航海契約を結ぶ(芙蓉丸96トン)
1922(大正11)年	5月 八丈丸(345トン)三宅島・八丈島就航
1925(大正14)年	4月 八丈丸、三根沖で暴風雨のため遭難沈没(船員13名死亡)
1926(昭和元年)	4月 三宅島・八丈島、東京府知事の命令航路となる
1930(昭和5)年	10月 東京から八丈島寄港、小笠原父島・母島に至る定期航路開始。主として桐丸(531トン)が就航
1941(昭和16)年	戦時下、桐丸の月6回の就航が秋丸3回の就航になる
1945(昭和20)年	戦時下、4月16日東光丸撃沈される(約120名死亡)
1947(昭和22)年	6月 黒潮丸(496トン)東京-八丈島間就航
1948(昭和23)年	3月 第3旭丸、八丈島藍ヶ江港で遭難
1957(昭和32)年	東海汽船八丈島代理店を直営に切り替え、八丈島支店を設置
1965(昭和40)年	8月 神湊港底土岸壁完成、年間通して約90%の接岸が可能となる
1968(昭和43)年	10月 貨物船弥栄丸(330トン)三宅島・八丈島間に就航
1971(昭和46)年	6月 ふりいじあ丸(2,286トン)が就航
1978(昭和53)年	4月 すとれちあ丸(3,708トン)が就航
1983(昭和58)年	3月 ふじしま丸(149トン)八重根港入港
2002(平成14)年	5月 さるびあ丸(4,973トン)が就航
2012(平成24)年	2月 八重根港船客待合所供用開始
2014(平成26)年	6月 橘丸(5,681トン)が就航
2014(平成26)年	7月 神湊港(底土)船客待合所供用開始
2020(令和2)年	6月 さるびあ丸(3代目・6,099トン)が就航



八丈島への空路は、東京・羽田空港より全日空のジェット機が約55分で結んでいます。また、東京愛らんどチャトルが八丈島を基地にして青ヶ島、御蔵島、三宅島、利島、大島とアクセスしています(毎日就航)。海路は、東海汽船の大型客船が東京・竹芝桟橋から毎日就航しています。竹芝を夜に出発し、三宅島・御蔵島を経由して約10時間25分で八丈島に到着します。

八丈島空路の沿革

1953(昭和28)年	青木航空就航(不定期)
1954(昭和29)年	5月 飛行場開設、青木航空セスナ機就航
1955(昭和30)年	4月 日本ヘリコプター輸送(株)の双発機(11人乗)週2回就航
1956(昭和31)年	青木航空が日本遊覧航空と社名変更 日本ヘリコプター輸送(株)の双発機(11人乗)週4回就航
1957(昭和32)年	12月 日本ヘリコプター輸送(株)が全日本空輸(株)と社名変更
1958(昭和33)年	12月 八丈島空港(第3種空港)設置許可
1959(昭和34)年	日本遊覧航空のヘロン機(15人乗)が就航するようになり、初めて客室乗務員が乗るようになる
1960(昭和35)年	6月 全日空 DC-3型機(30人乗)週2回就航 日本遊覧航空のヘロン機が名古屋へ就航
1961(昭和36)年	日本遊覧航空が藤田航空と社名変更
1962(昭和37)年	5月 八丈島空港供用開始
1963(昭和38)年	8月 藤田航空ヘロン機、八丈富士に激突19名死亡 11月 藤田航空、全日空と合併し、八丈空路は全日空の運行となり、フレンドシップ機(40人乗)就航
1969(昭和44)年	4月 YS-11型機(64人乗)就航
1972(昭和47)年	6月 滑走路延長1,200mから1,500mへ供用開始
1973(昭和48)年	3月 名古屋定期路線開始
1975(昭和50)年	12月 第2次拡張計画決定
1982(昭和57)年	4月 滑走路1,800m×45m供用開始 B737型機(126人乗)就航、ターミナルビル供用開始
1985(昭和60)年	5月 エアーニッポンにYS-11型機路線移管 B737型機(126人乗)就航、ターミナルビル供用開始
1988(昭和63)年	4月 エアーニッポンにB737型機路線移管
1989(平成元年)	8月 ヘリコプター第1回試験運行(8/12~8/19) 7月 八丈島-東京間のジェット化促進
1993(平成5)年	7月 ヘリコプター-運航管理事務所及び格納庫完成 8月 ヘリコプター-運航開始
2000(平成12)年	7月 B737-400型機(170人乗)就航
2004(平成16)年	10月 滑走路2,000m供用開始
2005(平成17)年	10月 エアバス320型機(166人乗)就航 10月 大島經由便運行
2009(平成21)年	10月 大島經由便廃止
2012(平成24)年	10月 B737-800型機(166・167人乗)就航
2017(平成29)年	9月 特定有人国境離島地域社会維持交付金を活用した空路運賃低廉化が開始。
2022(令和4)年	12月 AW139型機(9人乗)が就航。

町のシンボル



町の紋章

この紋章は「躍進八丈」の意義を表現しています。八丈の文字をそのまま鳥形に意匠することにより、八丈が希求する永遠の平和と未来永劫やむなき進展とを象徴したものです。

(1957(昭和32)年10月制定)

町の鳥 アカコッコ



ツグミの一種で、伊豆諸島にのみ生息する固有種です。全長は約23センチの小鳥で、広葉樹林などに巣を作り、昆虫や木の実などを好んで食べます。

町の花 ストレチア



南アフリカ喜望峰を原産とし、学名はストレチア・レギナエ。ストレチア科に属し、葉のつけ根から極めて優美華麗な長い花茎を伸ばす。その姿が鳥に似ていることから「極楽鳥花」とも呼ばれています。

町の木 フェニックス・ロベレニー



和名は「シンノウヤシ」で、原産はインドシナ半島。八丈島では大正10年に雌雄2本が移入されたことから栽培が始まりました。太平洋戦争の影響で一時は中断しましたが、戦後の花き園芸の復興とともに再び広まり、その名が示すとおり“フェニックス(不死鳥)”のように復活し、現在では世界有数の栽培地となっています。

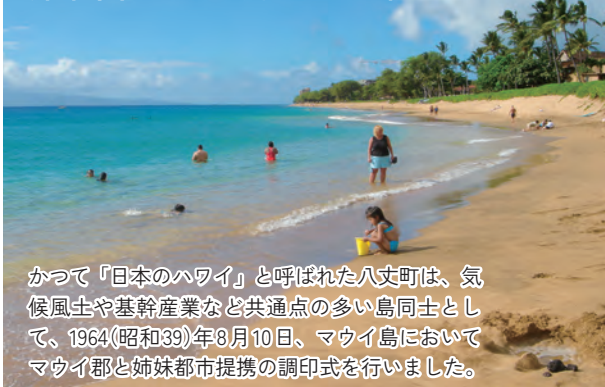


町の魚 ハマトビウオ

八丈島では「ハルトビ」と呼ばれ、ハルトビ漁は明治時代から盛んに行われてきました。翼のある姿から縁起の良い魚とされ、島の人々に親しまれています。ハルトビは鮮魚のほか、塩干し、くさや、燻製などに加工され、土産品としても珍重されています。春先に産卵のため伊豆諸島南方から島伝いに北上することから、別名「春告魚」とも呼ばれています。

交流

姉妹都市 ハワイ州・マウイ郡



かつて「日本のハワイ」と呼ばれた八丈町は、気候風土や基幹産業など共通点の多い島同士として、1964(昭和39)年8月10日、マウイ郡においてマウイ郡と姉妹都市提携の調印式を行いました。

姉妹島 沖縄県南大東島

1900(明治33)年に八丈島民が開拓を開始した南大東島とは、1982(昭和57)年1月23日に姉妹島提携を結びました。

1月23日は、八丈島からの開拓者が上陸した記念日であり、南大東島には八丈島にゆかりのあるものが多く残っています。



友好都市 東京都小笠原村

小笠原諸島返還記念日の1988(昭和63)年6月26日に、八丈町と小笠原村が友好都市提携を結びました。また、毎年6月には八丈町から小笠原村への親善訪問が行われています。

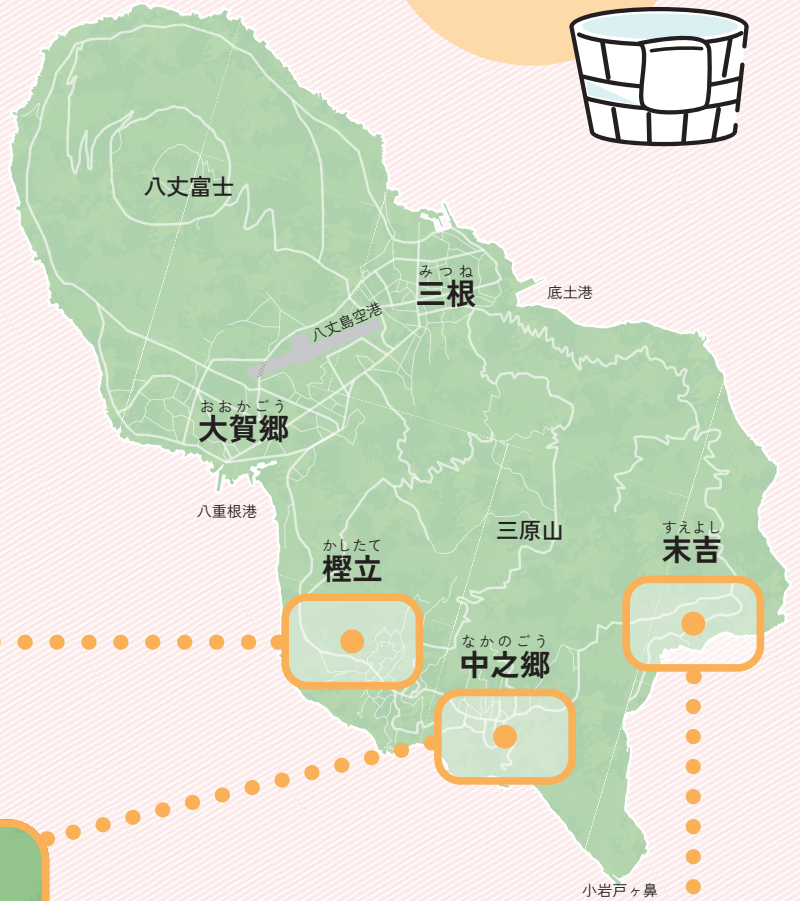
心と体を癒やす
地球の恵み

温泉

泉質や料金など
くわしくは
八丈町公式サイトを
ご覧ください。



A 檜立向里温泉スタンド
檜立向里温泉(ふれあいの湯、ふれあいの湯だらん)
(10:00~22:00 / 月曜定休)



B 中之郷温泉 やすらぎの湯
(10:00~21:00 木曜定休)

C 裏見ヶ滝温泉
(9:00~21:00 年中無休)
※男女混浴のため水着着用
※せっけん・シャンプー使用不可

E 中之郷尾越温泉スタンド
(9:00~21:00 年中無休)



D 足湯きらめき
(11:00~21:00 年中無休)



F 末吉温泉 みはらしの湯
(10:30~21:30 火曜定休)

G 洞輪沢温泉
(9:00~21:00 月曜定休)
※せっけん・シャンプー使用不可

「ともに支えあう

あたたかい町」

基本構想に掲げた八丈町の将来像は

「ともに支えあうあたたかい町」です。

世代、性別、思想などの多様性を尊重し、

町民、地域、企業や団体、行政が

協働することで、相互の知恵を結集し、

新たなまちの魅力や価値を共に創りあげる

「共創」の未来を目指します。



住民が主役の 明るい町

私たち町民は、文化、福祉、環境などのさまざまな活動に対して、活発に参加してきました。住民の主体的な活動は、これからのまちづくりにおいてもその中心に位置付けられるものです。

まちづくりの基本方向

—— 八丈町基本構想(令和3年度～12年度) ——

島を生かす町

八丈島の先人たちは、古くからこの広大な太平洋の領域に雄飛し、山や森や海の恵みを、暮らしの豊かさに変えてきました。島の魅力を生かすことは、八丈島の未来を照らすことに繋がります。



歴史と文化を 生かす町

八丈島の各地に残る遺跡、伝承されてきた歴史、有形無形の文化は、全て私たち町民のかけがえのない財産です。それらの歴史と文化の探求は、八丈島の貴重な財産としての価値を一層高め、八丈町の発展に繋がっていきます。



History and Culture

八丈町民憲章に基づき、「住民が主役の町」、「島を生かす町」、「歴史と文化を生かす町」、「クリーンアイランドを目指す町」の4つの柱をまちづくりの基本方向として掲げ、豊かな地域社会の実現を目指すため、「持続可能な開発目標」の考え方を取り入れました。



クリーンアイランド を目指す町

八丈島の美しい自然環境や景観は、町民や八丈島を訪れた人の心と体を癒すだけでなく、自然エネルギーとして無限の恩恵をもたらす可能性を秘めています。また、自然環境の保護と活用や、環境負荷の低減は、町民の暮らしの豊かさを育むものです。



Clean Islands

主なできごと 2025

HEAD LINE 2025

1月

- 5日
二十歳のつどい
- 12日
第44回 八丈島パブリックロードレース
- 25・26日
第33回 八丈島産業祭
八丈島広報推進連携協定締結
※八丈島農業協同組合、八丈島漁業協同組合、
八丈町商工会、一般社団法人八丈島観光協会、
八丈町の5者による協定



二十歳のつどい



パブリックロードレース

2月

- 9～11日
第30回 八丈島文化フェスティバル

3月

- 4～8日
フリージアキャラバン
- 16日
町制施行70周年・
團伊玖磨生誕100年記念歌劇『夕鶴』
- 22日～4月6日
第59回 八丈島フリージアまつり



第33回 八丈島産業祭・
八丈島広報推進連携
協定締結



4月

- 2日
八丈島の海・山・暮らし館オープン
- 21日
八丈町事業説明会



町制施行70周年・
團伊玖磨生誕100年記念歌劇『夕鶴』



第69代ミス八丈 浅沼和海さん



八丈島の海・山・暮らし館オープン





島じまん 2025



愛らんどリーグ 2025



八丈島歴史民俗資料館
リニューアルオープン



地域おこし協力隊「八盛隊(八丈島を盛りあげ隊)」

5月

- 18日 樫立・中之郷地域敬老会
- 24日・25日 島じまん 2025(東京・竹芝/八丈町参加)
- 25日 三根地域敬老会

6月

- 19～24日 第44回小笠原親善訪問

7月

- 25日～27日 愛らんどリーグ 2025

8月

- 11日 八丈島納涼花火大会

9月

- 15日 大賀郷・末吉地域敬老会
- 21～25日 南大東島親善訪問
- 25日 自治振興委員の集い

10月

- 1日 八丈島歴史民俗資料館
リニューアルオープン
- 4日 第21回八丈島夢伝
- 5日 八丈町防災訓練(三根地域)
- 9日 台風第22号対応(詳細は次ページ)
- 13日 台風第23号対応(詳細は次ページ)

12月

- 21日 第4回八丈方言大会



台風第22号・第23号 ONE HACHIJO — 共に創る、創造的復興へ

令和7年10月、八丈島は台風第22号・第23号の襲来により、強風・豪雨・高波の影響を受け、停電や断水、農作物・公共施設への被害など、町民生活と産業に大きな影響が生まれました。

島内では倒木や土砂流入による通行止めが発生し、ライフラインにも支障が生まれましたが、船便・空輸ともに搬送が実施され、自衛隊による支援も加わることで、生活物資や復旧資材の搬入は継続されました。花きをはじめとする農作物や漁業関係施設、港湾設備にも被害が確認されました。

台風通過後は、町に加え、国や東京都の関係機関、インフラ事業者、民間事業者などの支援と連携のもと、被害状況の把握と応急対応を実施し、倒木の除去や道路の復旧、給水支援など生活に直結する対策を優先して進めました。また、地域住民による見守りや片付けの支援など、支え合いの行動が各所で見られました。

今回の経験を踏まえ、八丈町では、令和8年2月に「八丈町災害復興計画」を策定するとともに、復興の着実な推進と防災体制の強化を図るため、防災対策課を設置します。

本計画は、こうした推進体制のもと、対象地域を八丈町内全域とし、計画期間を令和7年度から令和12年度までの約5年間と定め、被災者の生活再建と社会基盤の回復を進めながら、強靱で持続可能な島づくりへとつなげることを目的としています。単なる復旧にとどまらず、新たな価値を生み出す創造的復興を基本理念に掲げ、「ONE HACHIJO ～共に創るまち、共に結束(つな)ぐ復興～」のもと、町・地域・関係機関が一体となって復興を推進します。



がけ崩れ・土砂崩れが多数発生。水源などのインフラにも大きな影響が出た。



倒木により、いたるところで道路が寸断された。



給水に並ぶ住民(中之郷公民館)



陸上自衛隊第1師団撤収時の感謝セレモニー
給食、給水、入浴など、多岐に渡る支援活動で住民の生活を支えた。



『ONE HACHIJO ～共に創るまち、共に結束(つな)ぐ復興～』八丈島に関わるすべての人がひとつに団結する ONE と、自然、文化、歴史という唯一無二 (ONE and Only) の魅力を尊重する ONE、二つの思いが込められています。明日葉をモチーフに摘んでも明日また芽吹く力強さは八丈島の復興そのもの。5枚の葉は5つの地域、多彩な色は“共創”のイメージ

八丈島の自然

八丈島は、海底火山の噴火によって、約10数万年前から生成されたと言われているため、地質年代的には古いものではない。また、孤島であるため、移入物が少なく、特徴的な動植物が多い。



地質学的な特徴

2つの海底火山がつながってできた“ひょうたん型”の島

八丈島は、単性火山である他の伊豆諸島の島と異なり、2つの性質の違った火山（八丈三原山と八丈富士）がくっついてできたひょうたん型の島である。

三原山は、10数万年前に噴火を始めた頃は富士型をしていたが、その後、約3万年前に巨大な陥没カルデラを形成、そしてそのカルデラを埋める噴火が繰り返し起きた（最終の活動は3,000年ほど前）ため、現在の複雑な山容を呈するようになったと言われている。その不整合面その他には、通年流れる川が複数存在しており、山自体の年代が古いことから火山灰が風化した土成分が多く水もちがよい上に、川の流れによる浸食が進んだことで谷が深い。そのため、伊豆・小笠原諸島で唯一水田が現在まで存在しており、昭和30年代に花き園芸に転作するまでは、十分ではないが稲作も行われていた。また、蓄熱層が存在し、温泉が湧いていることも特徴である。

基底層は安山岩だが、岩質は玄武岩から流紋岩くらいまでの多様なものが存在している。

八丈富士は、約1万年前から噴火が始まり、最終の噴火は1605（慶長10）年頃、最終の活動は2002（平成14）年とされている。流動性の高い玄武岩の溶岩と砂利の地質であることから、水の透過率が高いために川はない。また、山頂部は風の当たらないカルデラ内を除き、草地になっており、樹木の繁茂は見られない。

両方の山とも水蒸気爆発の痕跡が、海岸線を中心に存在しているが、火砕流の堆積物が残るのは三原山だけである。

現在、八丈島の火山については、気象庁による常時観測体制が整えられており、防災の観点から継続的な監視が行われている。



気候

寒暖差が少なく、
風が強く、雨が多い

気候区分上は温暖湿潤気候に属するが、黒潮に囲まれているため、海洋性気候に似た特徴を呈する。寒暖差は少なく、積雪や降霜、紅葉が基本的にない。また、周囲に遮るものがないので、1年中風が強く、雨が多い上に、天候が変わりやすい。台風、低気圧による強風、大雨による土砂災害等の風水害は近年増加傾向にあり、また、それら風害を一因とする塩害も古くから島民を悩ませているものである。

近年は、気候変動の影響も指摘されており、自然災害への備えや環境変化への対応がより重要となっている。



生物

“ハチジョウ”と名のつく
植物や昆虫が多い

周囲を海に囲まれているため、八丈島における哺乳類は元々コウモリしかおらず、そのほかの動植物は Wave（波）・Wind（風）・Wing（鳥の翼）という3Wの要素によって偶発的に渡ってきたものが多い。そうした動植物の中には、そのまま定着し進化を重ねたことで、ハチジョウ〇〇といった名のつく植物や昆虫なども多く存在する。植生の極相は、シイ・タブ林だと言われている。

2013（平成25）年からは八丈小島におけるクロアシアホウドリの繁殖行動、2015（平成27）年からはザトウクジラの回遊も見られるようになっている。

これらは、八丈島周辺の自然環境の豊かさを示すものとして、調査や保全の観点からも注目されている。

八丈島の自然は、島民の暮らしや産業、観光と深く結びついており、その保全と活用の両立が求められている。

八丈島の歴史と文化

八丈島は、伊豆諸島の最南部にあり、その周辺を黒潮本流が流れる「黒潮文化圏」と呼ばれる位置にある。黒潮は世界最速の海流の1つとされ、唯一大蛇行する性質をもったため、八丈島への漂着船が多かった原因にもなっている。また、青ヶ島以南への移動は困難であったため、古代から文物が堆積する場所でもあった。

✦ 先史・古代時代

八丈島には約7000年前から、丸太をくりぬいて作った船で島伝いに渡ってきた人が住んでいたとも言われているが、彼らは、現在の島民の祖先にあたるわけではなく、いずれまた他の島に渡っていったか、そのまま死に絶えたものと考えられている。人の定着生活は、弥生時代頃から始まったと考えられている。

■ 始祖伝説

八丈島には「丹那婆」「八十八重姫」「徐福」という系統を異にする3つの始祖伝説が残っている。

「丹那婆」は、丹那という女性とその子を始祖とする、日本で他に例のない母子交会の伝説であり、南方系文化にその脈絡が認められる。「八十八重姫」は、日本神話に登場する神、事代主命の妃である八十八重姫とその子を始祖とする内地系文化の伝説である。秦の方士「徐福」の伝説は、西方から流入した大陸系文化に属するもので、徐福に従って秦から来た男女500人ずつが八丈島・青ヶ島に住み着いたとされる。

■ かっぺた織

アイヌのアットゥシ織と同様に国内では珍しい古代織（機台を使わない織り方）と言われる独特のものである（後世の手が入っている）。1962(昭和37)年に「記録作成

等の措置を講ずべき無形文化財」として国指定を受けた。

現在も保存・継承の取り組みや研究が続けられており、その技術と文化的価値が見直されている。

■ 高倉(高床倉庫)

高倉が存在するのは、八丈島・琉球・奄美が有名であるが、八丈島は弥生時代の登呂遺跡と同じ形式（柱が床を貫いて屋根に達するもの）であり、琉球・奄美に残るものとは、まったく別の構造である。

■ 八丈方言(通称：島言葉)

八丈島という非常に狭い地域でのみ使われている言葉であるにもかかわらず、他のどの地域とも連続性がない非常に独特な言語で、日本で一番古い日本語（奈良時代よりも前）の要素が残るとされている。ユネスコが発表した消滅危機言語の内の1つ。

現在、島内の教育や地域活動を通じて継承が試みられており、文化的アイデンティティの一部として大切にされている。

これらの先史・古代の文化遺産は、考古学研究や地域学習の中でも活用され、島民の文化理解に役立っている。

◇ 中・近世

江戸時代は流刑の島（約1,900人流罪）として、1606(慶長11)年の宇喜多秀家（豊臣五大老の1人）をはじめとして、多くの流人が流された。彼らが多くの貢献をしたことは事実であり、また、絶海の孤島というイメージも伴い、八丈島は流人文化であることが強調されることが多いが、前述のとおり古代から続く文化があることから、流人の残した文化が八丈島の文化の主体になったとは言い難いだろう。

しかし、流人文化の足跡は、八丈島の歴史や民俗を知る上で重要な資料や地域行事として残され、島民の文化理解や観光資源としても活用されている。

幕末には、幕府の政策の下、小笠原への開拓を目的とした移住があり（一時中断）、その後の南方進出の先駆けとなった。

■ 黄八丈

歴史的に長く珍重され、室町時代には貢納品、また、戦国時代には争いの元となった絹織物。現在でも伝統産

業として生き続け、江戸時代と同様に地場の自然物を用いた染色（黄・樺・黒の3色で、縞や格子地に織る）、手織りで製作されており、国の伝統的工芸品に指定されている。

明治時代以後は、生糸を移出した時代や養蚕の特産地であった時代もあるが、現在では養蚕は行われていない。現在は織手や団体による技術継承が続き、伝統工芸としての価値や地域産業・土産品としての役割を通じて、八丈島の文化理解や地域アイデンティティの形成に寄与している。

■ 八丈太鼓と民謡・踊り

八丈太鼓は、1つの太鼓の片面を一定のリズムで刻む下打手(下打ち)、もう片面を自由なフレーズを考えて打つ上打手(上打ち)に分かれ、両面をもつ日本全体で見ても非常に珍しい形式をもつ。現在でも島内の行事では欠かせない文化の一つである。これらの芸能は、地域の学校や文化団体でも体験・学習の対象となっており、島民

の文化継承や地域のアイデンティティ形成に役立っている。そのほか、本土との関連性が感じられる「シヨメ節」や「舟漕ぎ踊り」などの民謡、踊りがあり、東京都の無形民俗文化財に指定されている。

■「八丈実記」と流人近藤富蔵

幕末から明治初期の八丈島や伊豆・小笠原の歴史・風俗・習慣を知る上で貴重な資料である『八丈実記』は、1827(文政10)年に流罪となった近藤富蔵によって著されたものである。なお、近藤富蔵は、八丈島へ流された後に八丈島に渡ってきたという漂着をモチーフにした戯曲の図案を考案したとされている。

■焼酎(通称：島酒)と流人丹宗庄右衛門

十分な量のサツマイモが収穫できるようになる1835(天保6)年頃まで、八丈島は毎年のように飢饉に悩まされ、貴重な食糧であった米からの酒造りは禁止されていた。

た。現在でも島に愛されるサツマイモを原料とした焼酎は、1853(嘉永6)年に流罪となった丹宗庄右衛門によってその製法が伝えられたものである。これらの伝統的な食文化は、島内外での販売や観光資源としても活用され、地域の産業・ブランド価値の向上に寄与している。

■八丈八景

観光地として紹介されることの多い大坂夕照をはじめとする八丈八景は、1866(慶応2)年に流罪となった鹿島則文によって選定され、その当時の八丈島の文人達によって短歌や俳句、漢詩などが作られている。

江戸時代には流人文化とともに黄八丈、八丈太鼓・民謡・踊り、焼酎・くさやなどの伝統が発展し、現在も織手や保存団体の活動を通じて技術や文化が守られ、地域行事や文化継承に活かされている。



近代以降

明治維新後、それまで伊豆国(伊豆国に付属する)とされていた伊豆七島(現在の伊豆諸島)は、廃藩置県により韮山県、県名変更に伴い足柄県、そして静岡県となり、1878(明治11)年に東京府(現在の東京都)へ移管された。

幕末に始まった小笠原開拓を端緒として、明治時代以後、小笠原や鳥島、南大東島、そしてサイパン、テニアンなどに多くの島民が移住、開拓に従事したが、彼らは太平洋戦争において、玉砕するか収容所に入れられた後に日本へ送還される結果となった。

1954(昭和29)年に三根村・檜立村・中之郷村・末吉村・鳥打村が合併して八丈村に、その翌年1955(昭和30)年には八丈村・大賀郷村・宇津木村が合併し、八丈町が誕生した。

1969(昭和44)年、かつては500人以上の住民がいたと言われる八丈小島は、最終的に100人を切る人口となるほど過疎化が進み、その生活環境の厳しさ等を理由として、全国初の事例となる全員離島がなされた。

なお、実際の有人島は9島であるにもかかわらず、現在でも旅行パンフレット等で伊豆七島という呼称が見受けられるが、これは明治時代中期まで無人島であった式根島、遠隔の地として八丈島と一括りにされていた青ヶ島・八丈小島が、その数に含まれていなかったことに起因するものである。

■養牛

養牛は中世から行われていたと考えられている。江戸時代には牛の数は戸数よりも多く、昭和50年代までは牛の角突き(牛角力)も行われていた。明治以降は、乳量世界一の牛を生産するなど、八丈島は酪農王国として有名であったが、現在では、乳用牛から肉用牛へ移行しつつある。

■くさや

魚を開き、洗った後にくさや液、真水に漬け、乾燥させる、という製法の干物。八丈島のものは明治時代初期に新島から伝えられたと言われており、他の島に比べてくさや液の塩分が高く、また、真水に漬ける時間が長いことから、匂いが少なく食べやすいことが特徴である。

■フェニックス・ロベレニー(通称：ロベ)とアシタバ

八丈島の農業の中心は観葉植物栽培であり、中でもその基幹となっている全国シェア95%以上のフェニックス・ロベレニーは、大正時代からその栽培が始まった。アシタバは、八丈島が産地として有名であることから八丈草とも呼ばれ、元々島民に身近な野菜である。昭和50年代頃からは健康食品として島外に販売され始めた。

■戦争遺跡

伊豆諸島の最南部ということで、第二次世界大戦中は本土防衛体制の一環として防衛強化がなされ、いまでも多くの戦跡が残っている。現在使用されている八丈島空港は、元々は、1927(昭和2)年に海軍飛行場として建設され、1944(昭和19)年に増設された場所にあり、特攻機が飛び立ったこともある。そのほかにも特攻兵器回天及び震洋の壕跡、最初にB29を捉えたレーダー基地跡、八丈と名のつく満蒙開拓団の石碑、多くの大型の陣地壕などがある。

明治以降は、酪農や観葉植物、アシタバの栽培といった産業や戦争遺跡なども島の重要な文化資源となり、八丈島の歴史や生活文化を支えている。

八丈島の歴史文化は、先史・古代から独自に生まれ、江戸時代以降も発展を重ね、現在も伝統の継承や地域資源の活用を通じて、島の文化と生活を支えている。

■地勢

	八丈島	八丈小島	その他岩礁等	八丈町
面積	69.11km ²	3.07km ²	0.06km ²	72.24km ²
位置	北緯	33° 06'46"	33° 7'32"	
	東経	139° 47'21"	139° 41'18"	

※面積：令和6年全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)を基に八丈町が作成

※位置：市区町村の役所・役場及び東西南北端点の経度緯度(国土地理院)、地理院地図(国土地理院)を基に八丈町が作成

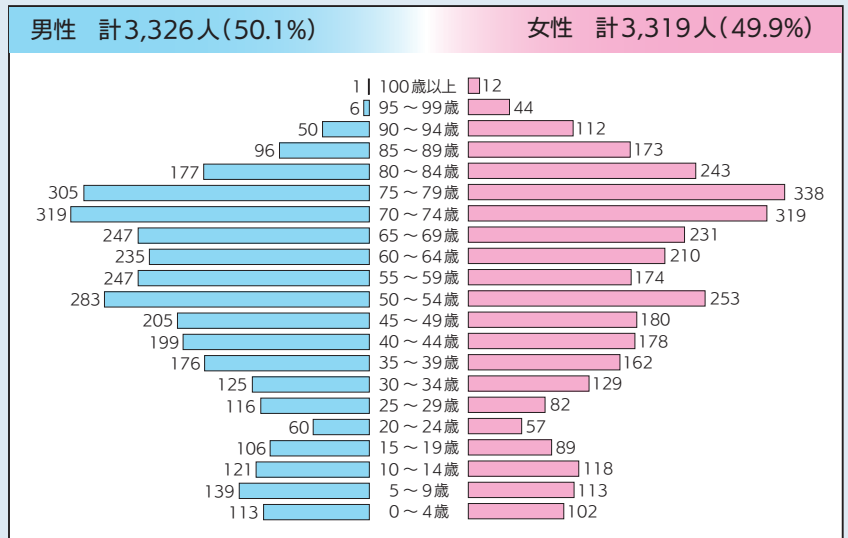
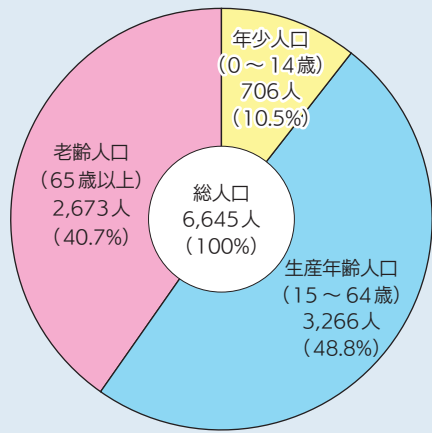
■気象概況 (1991年1月1日～2020年12月31日の30年間平均)

主要気象		八丈町	東京(参考)
気温(℃)	年平均	18.0	15.8
	最寒月平均	1月 10.1	1月 5.4
	最暖月平均	8月 26.5	8月 26.9
	日最高気温の最暖月平均	8月 29.6	8月 31.3
	日最低気温の最寒月平均	2月 7.4	1月 1.2
年降水量(mm)	3,306.6	1,598.2	
年日照時間(時間)	1,445.0	1,926.7	
年平均湿度(%)	79	65	
年強風日数	(10m/s以上)	112.4	16.3
	(15m/s以上)	16.3	0.4

※過去の気象データ(気象庁)を基に八丈町が作成

※年強風日数において、10m/s以上の日数は15m/s以上の日数を含む

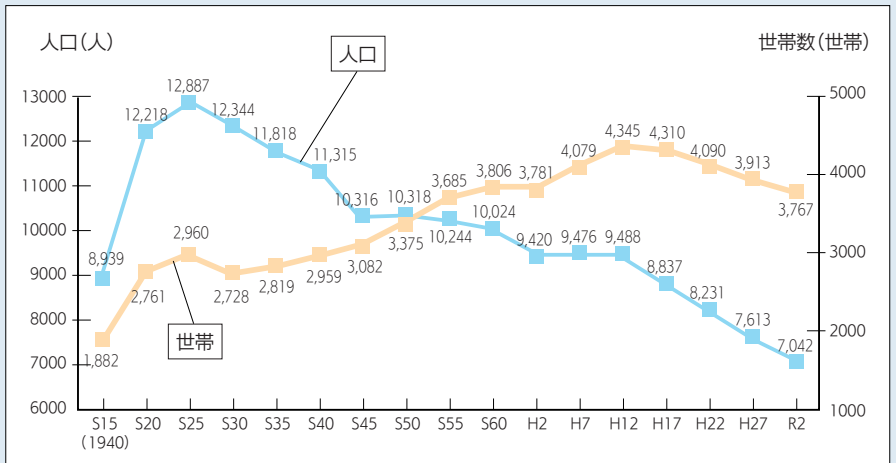
■年齢別人口構成 (2025年4月1日)



■地域別世帯数と人口 (2025年4月1日)

地域	世帯数	人口
三根	1,970世帯	3,263人
大賀郷	1,330世帯	2,173人
檜立	248世帯	413人
中之郷	333世帯	568人
末吉	161世帯	228人
計	4,042世帯	6,645人
八丈島における 外国人人口		127人

■人口・世帯数の推移

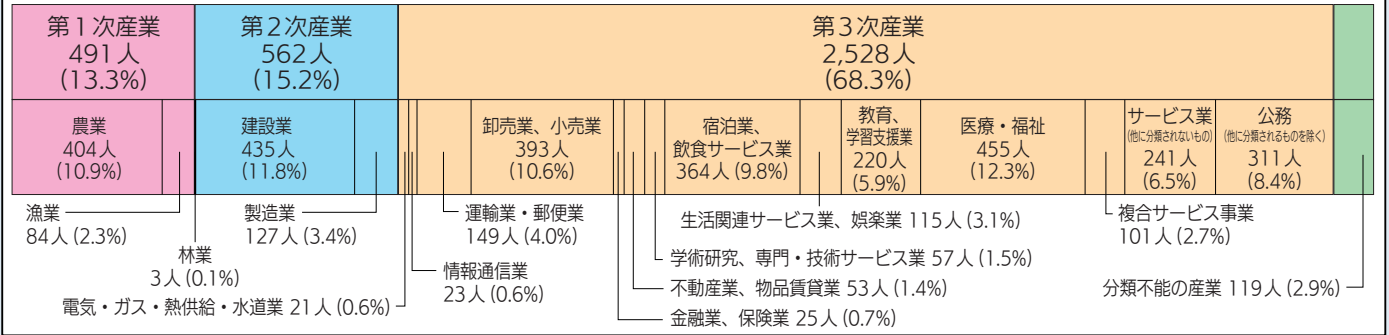


※国勢調査を基に八丈町が作成

産業別就業者数

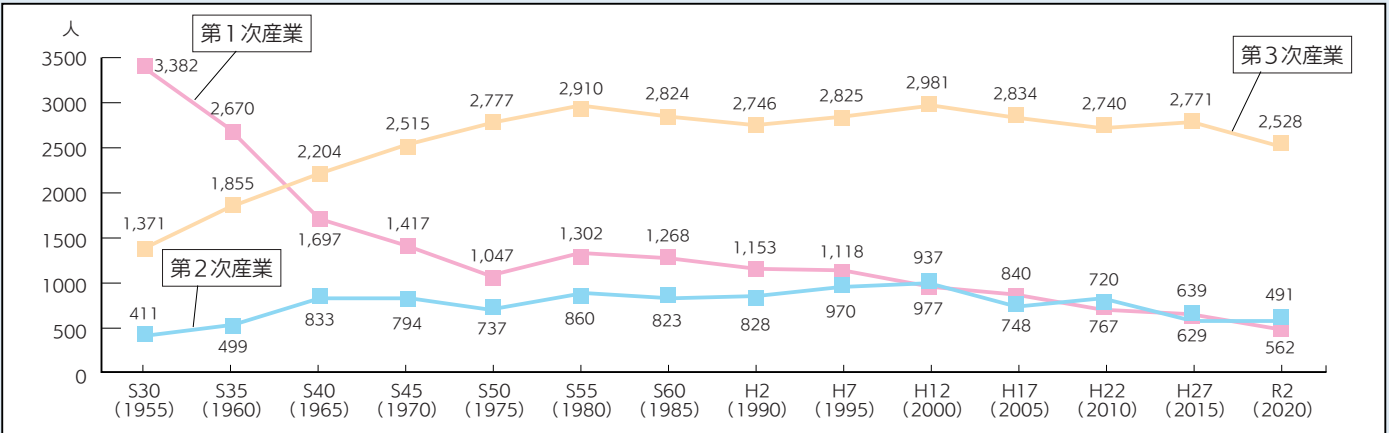
※令和2年国勢調査を基に八丈町が作成

就業者数：3,700人 15歳以上人口：6,242人 労働力人口：3,777人



産業別就業者数の推移

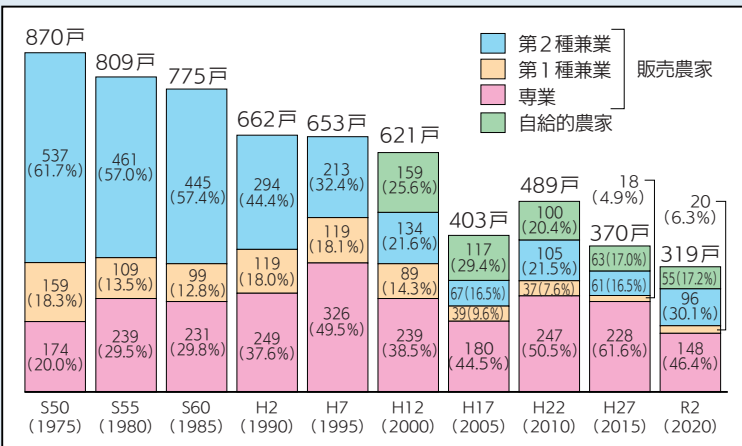
※国勢調査を基に八丈町が作成



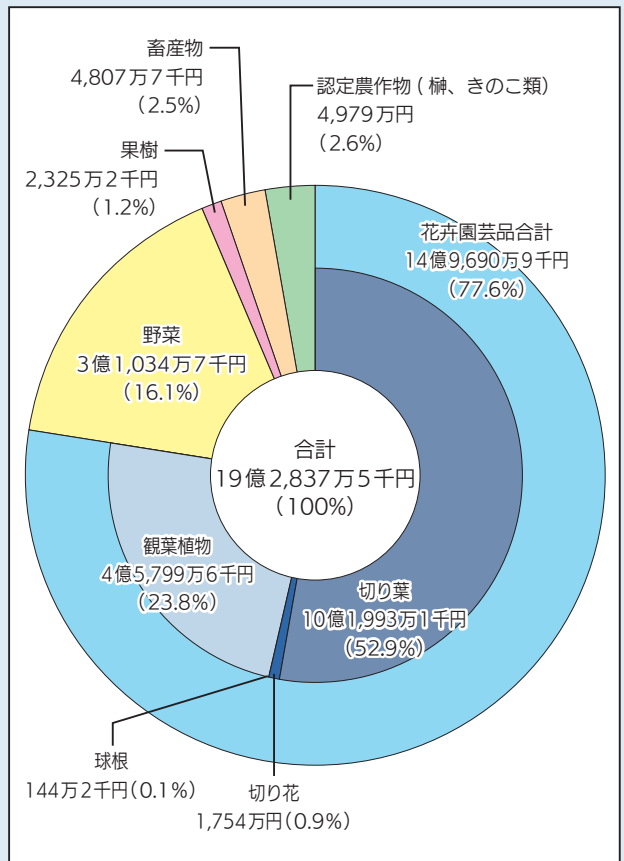
農業 AGRICULTURE

農家数の推移

※農林業センサスを基に八丈町が作成



農林業生産額 (2024年1月~12月)

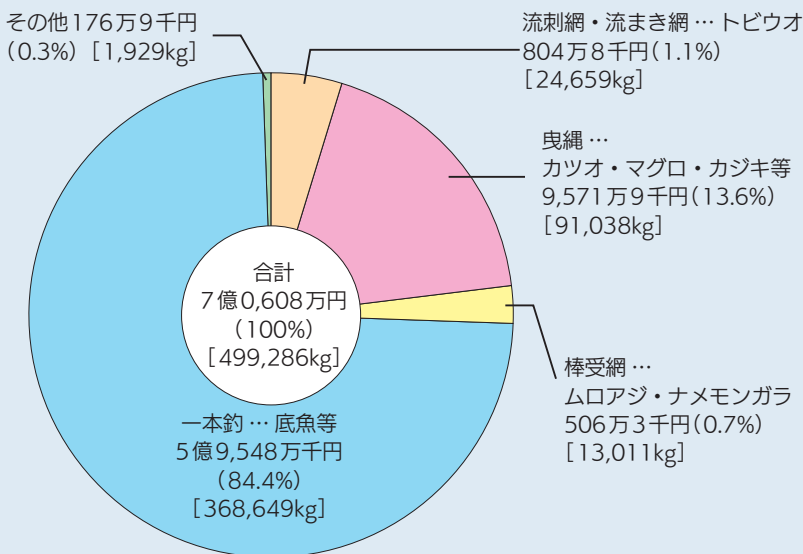


経営耕地・作物別作付面積 (2024年1月1日)

作物		面積		割合 (%)
花き園芸	フェニックス・ロベニー	183ha	48.4%	
	球根類	1ha	0.3%	
	鉢物	17ha	4.5%	
	その他の花き	49ha	13.0%	
野菜	あしたば	56ha	14.7%	26.5%
	その他の野菜	45ha	11.8%	
果樹		6ha	1.5%	1.5%
認定農作物(榊・きのこ類)		22ha	5.8%	5.8%
計		379ha	100.0%	100.0%

漁業 FISHERY

■ 漁業生産額 (2024年1月～12月) ※速報値



■ 魚種別漁獲量順位 (2024年1月～12月) ※速報値

順位	種名	漁獲量
1	キンメダイ	294,198kg
2	マグロ類	53,092kg
3	メダイ	39,942kg
4	カツオ類	25,805kg
5	トビウオ類	25,367kg
6	ムロアジ	12,712kg
7	ハマダイ	12,235kg
8	アオダイ	8,370kg
9	サワラ	5,214kg
10	チビキ	5,183kg

■ 漁港の状況 (2025年4月1日)

漁港名	種別	指定日	管理者	対象船舶	漁港施設		
					長さ		面積
					防波堤	岸壁	
神湊漁港	第4種	昭和26年7月10日	東京都	20ト	901m	1,028m	5,380㎡
八重根漁港	第4種	昭和26年7月10日	東京都	20ト	886m	752m	4,455㎡
中之郷漁港	第1種	昭和27年6月23日	東京都	20ト	251m	105m	3,748㎡
洞輪沢漁港	第1種	昭和27年6月23日	東京都	20ト	523m	229m	3,315㎡

■ 漁船数 (2024年12月31日)

トン数規模	漁船数
3ト未満	36隻
3ト～10ト未満	59隻
10ト～20ト未満	13隻
20ト以上	0隻
計	108隻

※東京都八丈支庁調べ
※官公庁船を除く

※東京都八丈支庁調べ
※いずれの防波堤にも照明施設一式あり

商業 COMMERCE & MANUFACTURING INDUSTRY

■ 加工業製品生産調べ

品目	生産額
くさや類 (2024年1月～12月)	3,254万9,855円
農畜産物 (2024年1月～12月)	5,508万7,670円
黄八丈 (2024年4月～2025年3月)	1億787万7,242円
焼酎 (2024年4月～2025年3月)	2億3,000万円

※くさや類：八丈島水産加工業協同組合調べ
農畜産物：八丈町産業観光課・八丈島乳業(株)調べ
黄八丈：黄八丈織物協同組合・黄八丈めゆ工房・八丈民芸商事調べ
焼酎：各酒造調べ

観光 SIGHTSEEING

■主な行事 (2024年1月～12月)

パブリックロードレース	1月
産業祭	1月
フリージアまつり	3～4月
夏まつり	7月
浜遊び	中止
納涼花火大会	8月
タコスカップ (サーフィン大会)	8～9月
RAINBOW CUP2024 (フットサル大会)	9月
24時間チャレンジ八丈太鼓	11月
ユニバーサルキャンプ	中止

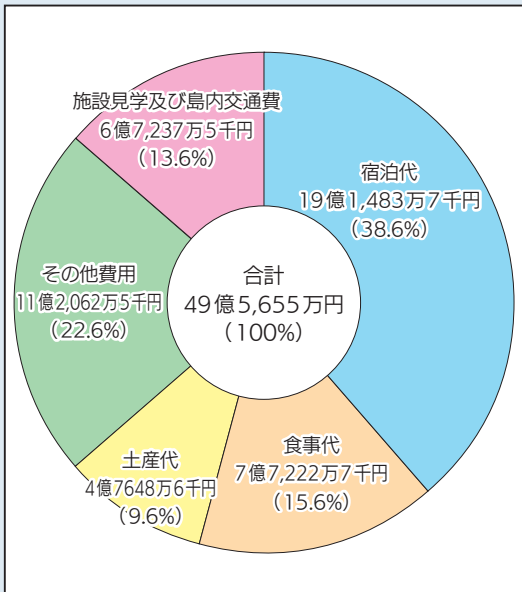
■宿泊施設 (2025年1月)

(休業中は含まず)

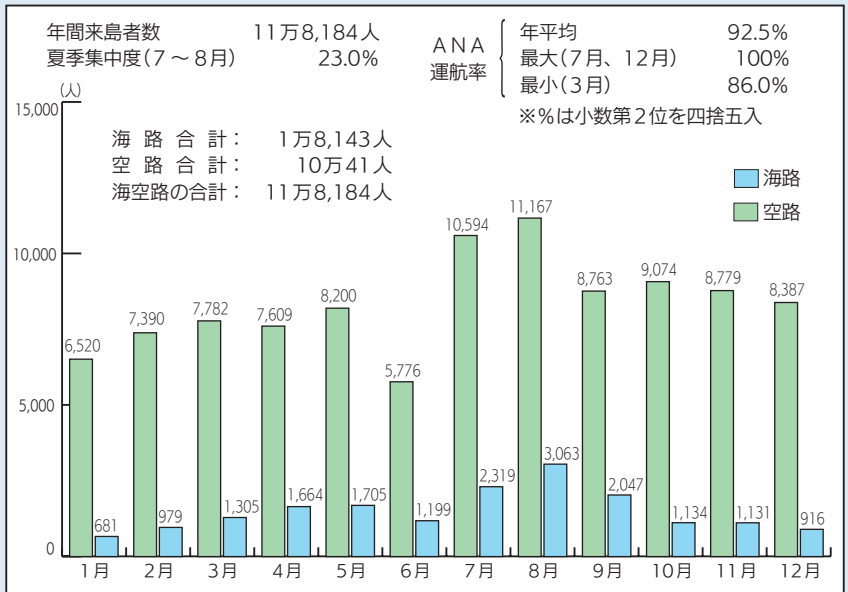
区分 地域名	ホテル		旅館・民宿・ ペンション		合計		キャンプ場	
	軒数	登録定員	軒数	登録定員	軒数	登録定員	箇所	数
三根	2	233	38	879	40	1,112	1	80張
大賀郷	1	200	28	507	29	707	1	20人
檜立	0	0	0	0	0	0	0	0
中之郷	0	0	3	98	3	98	0	0
末吉	0	0	2	29	2	29	0	0
計	3	433	71	1,513	74	1,946	2	80張

ホテル	1泊2食付 約15,000円～	旅館	1泊2食付 約9,000円～
ペンション	1泊2食付 約9,000円～	民宿	1泊2食付 約9,000円～

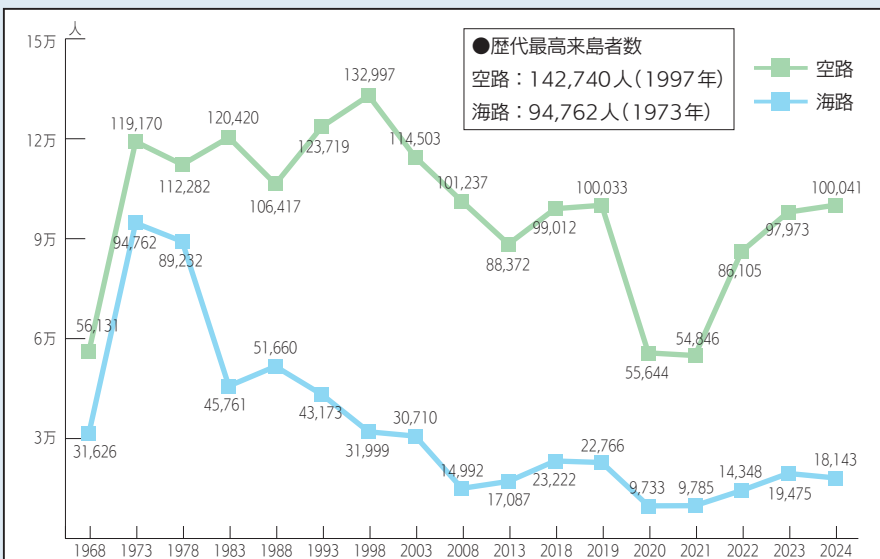
■観光客消費額推計 (2024年1月～12月)



■航路別来島者数の月別推移 (2024年1月～12月)



■航路別来島者数の年別推移



期間	来島者数(人)		
	空路便	船便	総数
2010	93,989	15,519	109,508
2011	89,729	16,282	106,011
2012	95,379	17,077	112,456
2013	97,214	17,087	114,301
2014	88,372	16,634	105,006
2015	86,301	18,832	105,133
2016	89,990	20,652	110,642
2017	95,889	24,913	120,802
2018	99,012	23,222	122,234
2019	100,033	22,766	122,799
2020	55,644	9,733	65,377
2021	54,846	9,785	64,631
2022	86,105	14,348	100,453
2023	97,973	19,475	117,448
2024	100,041	18,143	118,184

保健 HEALTH

医療機関などの施設状況 (2025年4月1日)

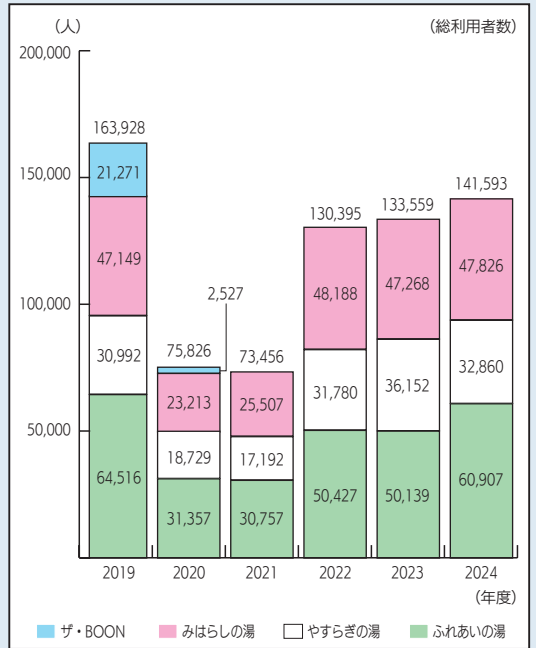
施設区分	施設数
町立病院	1か所
保健所	1か所
診療所	1か所
歯科診療所	5か所
施術所 ・あんまマッサージ ・指圧師 ・はり師 ・柔道整復師	6か所
薬局	3か所
医薬品特例販売店	5か所
歯科技工所	1か所

※東京都島しょ保健所八丈島出張所調べ

健診・検診数 (個別、集団) (2024年度)

健診・検診の種類	人数
胃がん検診 (バリウム胃部X線)	258人
肺がん検診(胸部X線)	856人
肺がん検診(かくたん)	53人
大腸がん検診(便潜血)	478人
乳がん検診 (マンモグラフィ)	267人
子宮頸がん検診 (視診・細胞診)	289人
特定健康診査(国保)・健康診査(後期)	891人
骨密度測定会	439人

温泉利用者数



福祉 WELFARE

高齢人口 (八丈島: 2025年9月1日 / 市町村部・東京・全国: 2025年9月15日)

	八丈島	市町村部 (多摩・島しょ)	東京	全国
高齢人口 (65歳以上)	2,769人	110万人	312万人	3,619万人
比率	39.9%	26.5%	23.4%	29.4%

※東京・市町村部: 2024年「敬老の日にちなんだ東京都の高齢者人口(推計) (東京都)を基に八丈町が作成

※全国: 「統計から見た我が国の高齢者」(総務省)を基に八丈町が作成

※%は、少数第2位を四捨五入

高齢者祝金の状況 (2024年度)

種別	人数	金額
90歳祝金	44人	88万円
100歳祝金	3人	30万円

社会福祉協議会の状況 (2025年4月1日)

会員数	250件
事業予算	1億1,211万1千円
法人運営事業	3,086万8千円
地域福祉事業	2,567万3千円
受託事業	2,122万8千円
居宅介護事業	3,333万1千円
応急小口資金特別会計	100万1千円
歳末たすけあい特別会計	1万円

※八丈町社会福祉協議会調べ

介護保険要介護認定者数 (2025年4月1日)

	要支援		要介護					計
	1	2	1	2	3	4	5	
人数	120人	65人	86人	84人	73人	82人	63人	573人

児童手当支給状況 (2024年度)

	児童手当	児童育成手当
支給児童数(延べ人数)	6,439人	1,554人
支給金額	7,874万5,000円	2,118万5,000円

保育園状況 (2025年4月1日)

施設数	3箇所	措置率	79.28%
定員	251人	職員数	31人
実員	199人		〔保育士 26人〕 〔調理員 5人〕
事業費	2億6,907万2,623円		
	〔国費 7万6,000円〕 〔都費 4,073万9,000円〕 〔町費 2億1,819万9,693円〕 〔住民負担 609万5,130円〕 〔その他 396万2,800円〕		

生活保護扶助別実施状況 (2024年度末)

	生活	住宅	教育	介護	医療	生業	葬祭	出産	計
金額	1億2,150万7,569円	5,364万4,728円	0円	2,350万4,274円	1億4,489万1,950円	9万2,973円	295万8,520円	0円	3億4,660万0,014円

※東京都八丈支庁調べ

■障害者手帳交付状況

(2025年3月31日)

障害区分	人数
視覚	23名
聴覚	13名
肢体	136名
平衡	2名
言語	6名
そしゃく	1名
内 部	115名
計	296名

※障害の重複あり

■愛の手帳交付状況

(2025年3月31日)

年齢	人数
18歳未満	13名
18歳以上	42名
計	55名

■精神障害者保健福祉手帳交付状況

(2025年3月31日)

交付数	人数
交付数	74名

■老人クラブの状況

(2025年4月1日)

クラブ数	18クラブ
会員数(人)	746人
クラブ助成金額	491万3,374円

■国民年金加入状況

(2025年3月31日)

種別	人数
第1号被保険者数	875人
第3号被保険者数	273人
任意加入被保険者数	16人
計	1164人

■国保保険給付費支払状況

(2024年度)

種別		金額
高額療養費	一般被保険者分	1億554万8,168円
	退職者被保険者分	0円
種別	件数	金額
出産育児給付	5件	250万円
葬 祭 費	16件	80万円

■後期高齢者医療被保険者証交付状況

(2025年4月1日)

後期高齢者医療被保険者数	1,477人
--------------	--------

■国民年金受給権者数

(2025年3月31日)

種別	人数
老 齢 基 礎 年 金	2,371人
老 齢 年 金	80人
通 算 老 齢 年 金	12人
障 害 基 礎 年 金	123人
障 害 年 金 (旧)	4人
遺 族 基 礎 年 金	5人
寡 婦 年 金	2人
福 祉 年 金	0人
特 別 障 害 給 付 金	0人

■国保加入者数と平均保険税額

(2025年4月1日)

加入者数		平均保険税収額(医療分)	
世帯数	被保険者	一世帯あたり	一人あたり
1,411世帯	1,992人	92,406円	65,197円

医療 MEDICAL

■町立八丈病院延べ患者数 (2024年度)

区分	一般診療							
	計	内科	外科	産婦人科	小児科	リハビリ	透析	その他
入院	8,344人	6,346人	1,778人	156人	64人			
外来	34,773人	16,929人	6,017人	974人	3,673人	4,903人	2,277人	0人

区分	臨時診療												
	計	耳鼻咽喉科	精神神経科	整形外科	甲状腺内科	皮膚科	糖尿病内科	腎臓内科	消化器内科	神経内科	眼科	泌尿器科	循環器内科
外来	11,026人	1,163人	2,200人	1,452人	376人	1,314人	1,197人	291人	255人	140人	2,192人	388人	58人

■後期高齢者医療給付の状況 (2024年度)

区 分	受診件数	費 用 額	保険者負担分	一部負担金	
療養の給付等	入 院	1,033件	5億6,525万6,040円	9億8,649万1,057円	9,188万3,491円
	入 院 外	11,269件	2億3,345万9,850円		
	歯 科	4,230件	4,866万7,790円		
	調 剤	9,133件	1億9,240万3,010円		
	食事療養	972件	2,538万7,808円		
	訪問看護	71件	1,320万0,050円		
	療養費等	488件	504万4,317円		
計	26,224件	10億8,341万8,865円	9億9,091万6,909円	9,250万1,956円	

※受診件数の計に食事療養の件数は含まない。

■国保医療給付の状況(一般被保険者分) (2024年度)

区 分	受診件数	受診日数	費 用 額	保険者負担分	一部負担金	他法負担分	
療養の給付等	入 院	488件	5,843日	3億5,044万90円	5億5,610万4,214円	1億9,088万7,612円	1,428万681円
	入 院 外	10,427件	15,606日	2億1,035万9,090円			
	歯 科	5,312件	6,757日	5,193万2,630円			
	調 剤	7,865件	9,845枚	1億3,588万1,630円			
	食事療養	456件	14,942回	1,034万2,427円			
	訪問看護	52件	216日	231万6,640円			
	療養費等	452件		412万7,774円			
計	24,596件	28,422日	7億6,540万281円	5億5,906万1,944円	1億9,205万7,656円	1,428万681円	

※受診件数の計に食事療養の件数は含まない。 ※受診日数の計に調剤の枚数及び食事療養の回数は含まない。

■小・中学校の状況

(2025年5月1日)

校種	小学校	中学校
校数	3校	3校
児童・生徒数	317人	133人
学級数	20学級	11学級
教員数	42人	47人

■学校施設の現況

(2025年5月1日)

学校名	構造	面積	教室数		校地面積		付属建物 / m ²
			普通	特別		うち運動場	
三根小学校	RC 3階建	3,980m ²	8	13	16,048m ²	9,102m ² (芝生5,900含む)	体育館 RC=1,088 倉庫 S =22
大賀郷小学校	RC 3階建	2,645m ²	6	11	11,351m ²	5,798m ² (芝生2,771含む)	体育館 RC=790 倉庫 CB=20、S =22 地域・学校連携施設 RC=148
三原小学校	RC 2階建	2,179m ²	6	10	5,975m ²	2,436m ² (芝生2,436含む)	体育館 RC=695 倉庫 S =22
富士中学校	RC 2階建 CB	2,220m ² 6m ²	3	13	23,852m ²	17,378m ² (芝生848含む)	体育館 RC=743 倉庫 CB=40、S =9
大賀郷中学校	RC 2階建 RC 平屋	2,008m ² 63m ²	5	8	16,742m ²	6,800m ² (芝生1,715含む)	体育館 RC=848 倉庫 CB=60、S=13 地域・学校連携施設 RC=150
三原中学校	RC 2階建	2,239m ²	3	10	14,874m ²	8,739m ² (芝生2,731含む)	体育館 RC=800 倉庫 S =116

※ RC=鉄筋コンクリート、CB=コンクリートブロック、S =鉄骨、W= 木造)

■高等学校の状況

(2025年5月1日)

生徒数	全日制	111人
	定時制	11人
教員・職員数	62人	

2024年度卒業生

※東京都立八丈高等学校調べ

卒業後の進路	全日制	定時制	割合
大学短大進学者	26人	0人	55%
専門学校等	10人	1人	21%
就職進学	0人	0人	0%
就職	8人	2人	17%
その他	3人	0人	6%
計	47人	3人	100%

■共同調理場方式完全給食

(2024年度・2025年度)

年度	給食数 (1日)	給食予定日数	給食費用単価(1食あたり)				平均月額給食費(1ヵ月)			
			小学校			中学校	小学校			中学校
			低学年	中学年	高学年		低学年	中学年	高学年	
2024	610	190日 (うち米飯週3.5回)	236.98円	269.16円	289.92円	331.56円	4093円	4649円	5008円	5727円
2025	603	190日 (うち米飯週3.5回)	281.11円	319.28円	343.91円	393.3円	4783円	5467円	5800円	6627円

※なお無償化のため、保護者負担分はなし

■学校給食の状況

(2025年5月1日)

校種・校数	児童・生徒数	教職員等人数
小学校(3校)	317人	42人
中学校(3校)	133人	47人
給食人員計	539人	

■英会話教室

(2024年度)

クラス数	19クラス
受講者数	109人

■婦人会の状況

(2025年4月1日)

	三根	大賀郷	榎立	中之郷	末吉	計
会員数	229人	59人	32人	45人	20人	385人

■図書館利用状況

(2024年度)

開館日数	278日
利用者数	12,060人 { 一般8,651人 児童3,409人
平均利用者数	43人
蔵書数	42,413冊
視聴覚ライブラリー	ビデオ保有数 30巻 DVD 保有数 1,225枚

■指定文化財等件数

(2025年4月1日)

区分	件数(件)					計
	国指定分	国登録分	国選択分	都指定分	町指定分	
天然記念物	1	0	0	0	7	8
有形文化財	0	2	0	18	39	59
無形文化財	0	0	2	0	0	2
無形民俗文化財	0	0	1	3	0	4
史跡・旧跡	0	0	0	6	2	8
計	1	2	3	27	48	81

管内に存在する地域を定めずに指定されている国天然記念物

アカコッコ
カラスバト
イジマムシクイ
カムリウミスズメ
オカヤドカリ

■公民館施設状況 (2025年4月1日)

公民館名	完成年度	面積(m ²)					計
		集会室	厨房	図書会議室	和室	その他	
三根	2018年度	272	63	35	73	575	1,018
大賀郷	1984年度	253	60	30	75	328	746
檜立	1975年度	198	22	22	99	249	590
中之郷	1973年度	201	24	24	94	221	564
末吉	1978年度	242	26	20	97	229	614

■体育施設状況 (2025年4月1日)

※南原スポーツ公園は条例上は町立公園に該当するが、用途を考慮し、その設備を本項目に記載する

施設名	完成年度	面積	構造	概要
富士グラウンド (富士野球場)	1988年度	12,521m ²	内野：混合土 外野：ロングパイル人工芝 外周：砂	両翼：98m 中堅：120m 外野部分：人工芝サッカーコートとして利用可 少年サッカーコート1面 フットサルコート3面
富士ゲートボール場	1990年度	4,483m ²	透水性砂入り人工芝	コート：15.0m×20.0m 3面 休憩所：平屋鉄筋コンクリート造 49.5m ²
八丈町 コミュニティ センター	ボウリング場	1971年度		4レーン
	体育館	1971年度	砂入り人工芝	コート425m ²
	テニスコート	1995年度	砂入り人工芝	コート2面
檜立屋内運動場	1991年度	650m ²	体育館	鉄筋コンクリート
檜立運動場		4,450m ²	クレー	
中之郷屋内運動場	1987年度	650m ²	体育館	鉄筋コンクリート
中之郷運動場		5,557m ²	クレー	
末吉屋内運動場	1992年度	650m ²	体育館	鉄筋コンクリート
末吉運動場		4,425m ²	クレー	
南原 スポーツ公園	サッカー場	2006年度	天然芝(野芝)	サッカーコート2面：ピッチ寸法105m×68m 管理棟：平屋鉄筋コンクリート造、315.90m ²
	野球場	2011年度	内野：人工芝 外野：人工芝	両翼：92m 中堅：116m 付帯施設：ジョギングコース、芝生広場、壁打ち練習板

■スポーツ・文化活動の状況 (2024年度)

スポーツ

種目	人数	活動状況
野球	一般・児童220人	島内大会(一般、OB、少年学童)等開催 その他、通常活動。
バレーボール	一般・児童162人	島内大会(一般、少年学童)等開催 その他、通常活動。
サッカー	一般・児童236人	島外チームとの交流大会、シニア大会等開催 その他、通常活動。
バスケットボール	一般・児童95人	島内交流戦等実施 その他、通常活動。
卓球	一般・児童127人	島内大会(一般、シニア、少年学童)等開催 その他、通常活動。
武道	柔道 30人	(昇級審査会)通常活動中心。
	剣道 32人	
テニス	硬式27人	各種大会開催
町民体育大会	島内各地域649人	
ゲートボール	87人	
ゴルフ	20人	

文化活動

事業名	活動状況
團伊玖磨 記念コンサート	町制施行70周年・團伊玖磨生誕100年記念歌劇『夕鶴』 出演者：村上寿昭(指揮) / 森島英子(声楽指導・演出) / 澤畑恵美(つう) / 樋口達哉(与ひょう) / 泉 良平(惣と) / 仁賀 広大(運ず) / 竹内 伶奈(つう：カヴァーキャスト) / 高柳 圭(与ひょう：カヴァーキャスト) / 桐朋学園オーケストラ / 八丈「夕鶴」少年少女合唱団 / 加藤 洋朗(合唱指揮) / 小栗 哲家(プロダクションマネージャー)
八丈島民大講堂	1回目「介護予防の進め方」・「牧野標本館といっしょに東京の植物誌をつくろう」
	2回目「小説を書くということ」
子ども文化体験	子ども招待公演事業「人形劇 スイミー」 あそび体験事業「マジカルシャボン玉ショー」 「ふらり abinomi」、「キミにも作れる！キッズ寿司体験」
	映画鑑賞事業 「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」、 「ミニオンズフィーバー」
八丈島文化 フェスティバル	島内文化団体による舞台公演及び作品展示
八丈島 伝統芸能継承	八丈太鼓や地域の踊りなどを子どもたちに継承するための取り組み 「八丈島芸能文化祭」
團伊玖磨生誕100 年記念「筑後川 IN 八丈島2024」	島外の団体との交流・共演を通して、作品を完成させることを目的としたイベント 島外から117名、島内の出演者と合わせて総勢240名による團伊玖磨の「筑後川」等の合唱
八丈小島自然体験	子どもたちの小島への渡航体験。歴史、文化、自然体験活動を実施
婦人学級	教室…裁縫、料理、フラワーアレンジメント、生け花、寄せ植え、踊り、着付、予防体操、黄八丈アクセサリー

■八丈島歴史民俗資料館 (2024年度)

開館	2018年6月9日	入館者数	4,372人	
展示品				
考古関係	民俗関係	歴史関係	その他	計
110点	50点	5点	2点	167点

※開館日は、八丈支庁展示ホールへの一時移転日。
リニューアルオープン準備のため、12月より閉館。

■八丈島地熱館 (2024年度)

開館	2013年8月31日	入館者数	
----	------------	------	--

※2021年2月1日から地熱発電所新設工事のため休館中

■環境衛生施設数 (2025年4月1日)

区分	許可等件数
理容所	9件
美容所	16件
クリーニング所	3件
コインオペレーションクリーニング施設	3件
公衆浴場	7件
ホテル・旅館	33件
簡易宿所	52件
興行場	2件
プール(学校プール含む)	16件
水道施設	16件
小規模貯水槽水道等	32件
温泉利用施設	10件
墓地など	50件
特定建築物	7件
計	256件

※東京都島しょ保健所八丈島出張所調べ

■火葬・改葬 (2024年度)

火葬	127件
改葬	8件
計	135件

■ごみ処理取扱量 (2024年度)

施設	八丈町クリーンセンター 機械バッチ燃焼式焼却炉
処理能力	12.00トン (8時間運転×2炉) / 1日
焼却処理総量	2,374.55トン

区分	クリーンセンター処理量		
	収集	持込	計
燃やせるごみ	1,676.50ト	698.05ト	2,374.55ト
空き缶	25.59ト	0.51ト	26.10ト
空きビン	80.36ト	26.87ト	107.23ト
発泡スチロール	1.80ト	0.16ト	1.96ト
金属ごみ	49.24ト	10.61ト	59.85ト
有害ごみ	3.21ト	1.60ト	4.81ト
計	1,836.70ト	737.80ト	2,574.50ト

その他のごみ		
資源(ごみ)	ダンボール	374.91ト
	新聞・雑誌・雑紙	93.66ト
	古着	10.89ト
	ペットボトル	32.53ト
島外搬出(ごみ)	不燃性粗大	137.46ト
	廃自動車	623台
	リサイクル家電	1,660台

■家庭用生ゴミ堆肥化容器 (コンポスト) 貸与実績

(2024年度)

容量	件数
130ℓ	25件
230ℓ	55件
計	80件

■し尿・浄化槽汚泥収集運搬実績 (2024年度)

	運搬量	件数
し尿	4,352,920ℓ	1527件
浄化槽汚泥	5,751,870ℓ	1388件
計	10,104,790ℓ	2,915件

■合併処理浄化槽の状況 (2024年度)

汚水処理人口	3,072人
普及率	46.2%

※%は、少数第2位を四捨五入

■水道事業 (2024年度)

給水人口	6,624人	
普及率	99.7%	
水源取水能力	表流水	2,030m ³ /日
	地下水	4,230m ³ /日
	湧水	3,910m ³ /日
	計	10,170m ³ /日
有収水量	年間有収水量	1,041,326m ³
	月平均有収水量	86,777m ³
	1日平均有収水量	2,853m ³
	1日1人当たり	418ℓ
給水収益	年間給水収益	2億8,925万3,430円
	月平均給水収益	2,410万4,453円
	1人月平均給水収益	3,530円
	給水栓数	5,732栓

■水道料金 (2025年4月1日)

口径	装置料金	水道料金			
		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
13mm	760円	1~10m ³ 120円/m ³	11~20m ³ 150円/m ³	21~50m ³ 240円/m ³	51m ³ 以上 290円/m ³
20mm	900円				
25mm	1,150円	1~20m ³ 180円/m ³	21~50m ³ 270円/m ³	51~100m ³ 340円/m ³	101m ³ 以上 390円/m ³
30mm	1,930円				
40mm	2,070円	1~50m ³ 320円/m ³	51~100m ³ 370円/m ³	101~500m ³ 420円/m ³	501m ³ 以上 470円/m ³
50mm	4,590円				
75mm	5,700円	1~100m ³ 380円/m ³	101~500m ³ 430円/m ³	501~1000m ³ 480円/m ³	1001m ³ 以上 530円/m ³
臨時用(工事等)	6,000円	530円/m ³			

■ 町営バス運行実績 (2024年度)

	走行距離		輸送人員		収入金額	
一般乗合	139,328.8km	74.6%	9万4,729人	79.8%	1,386万8,155円	16.4%
貸切	47,493.2km	25.4%	2万4,014人	20.2%	7,047万6,473円	83.6%
計	186,822.0km	100.0%	118,743人	100.0%	8,434万4,628円	100.0%

■ 航空貨物取り扱い高 (2024年1月～12月)

移出	446ト	移入	188ト
----	------	----	------

※東京都八丈支庁調べ

■ 町営バス台数 (2025年度)

種類		乗車定員	台数
乗合	中型車	59人乗り	2台
		58人乗り	1台
	小型車	31人乗り	1台
貸切	大型車	52人乗り	1台
		49人乗り	2台
	中型車	36人乗り	1台
		35人乗り	3台
計			11台

路線数(系統数)	3路線5系統
----------	--------

■ 民営バス台数 (2025年11月1日)

業者数	1業者	
種類	乗車定員	台数
小型車	24人乗り	1台
	22人乗り	1台
	13人乗り	1台
計		3台

■ 観光バス貸切(ガイド付)料金 (2025年4月1日)

区分	大型料金 (34名以上)	中型料金 (21～33名)	小型料金 (1～20名)
1周コース	10万5,600円	9万5,700円	8万5,800円
半周コース	6万8,200円	6万1,600円	5万5,000円
送迎(ガイド無し)	3万7,400円	3万3,000円	2万8,600円

※上記料金は目安であり、実際の時間・走行距離により運賃は変わります。

■ 八丈島内郵便局の状況 (2025年4月1日)

区分	名称	集配
直営	八丈島郵便局	
	三根郵便局	○
	八丈島榎立郵便局	
	中之郷郵便局	○
	末吉郵便局	

■ 電力の状況 (2024年度)

認可出力	内 燃力発電	15,100kW
	地 熱 発 電	
日 最 大 電 力	最大電力	9,820kW
	発 生 月 日	7月30日14時

※東京電力パワーグリッド(株)東京総支社島嶼業務センター八丈島事務所調べ

■ 海上貨物取り扱い高 (2025年4月1日)

品 名	移出(ト)	移入(ト)		
農水産品	米・雑穀・豆	0	169	
	野菜・果物	117	5,985	
	その他農産品	2,360	66	
	畜産品	30	0	
	水産品	1,302	17	
林産品	林産物	1,341	42	
鉱産品	砂利・砂	6	28,855	
金属機械工業品	車両	2,886	5,466	
	非鉄金属	0	0	
	金属製品	933	5,203	
	産業機械	9	2,972	
化学工業品	その他機械・部品	1	0	
	セメント	12	3,074	
	その他窯業品	145	1,478	
	LPG・LNG	0	2,570	
	重油	788	10,941	
	石油製品	1,080	2,026	
	化学肥料	0	377	
	その他化学工業品	1	87	
	軽工業品	飲料	220	1,741
		製造食品	240	3,056
		その他・食料工業品	1	2
雑工業品	日用品	2	0	
	その他製造工業品	12	515	
特殊品	金属くず	0	14	
	動植物性製造飼肥料	0	298	
	廃棄物	5,258	41	
	廃土砂	0	0	
	輸送用容器	5,586	5,305	
	再利用資材	0	32	
取り合わせ品	5,584	17,812		
分類不能のもの	49	1,129		
計	27,963	101,201		

※港湾調査(国土交通省)を基に八丈町が作成

※移出入いづれか1ト以上の実績があるもののみ記載

■ 自動車台数 (2025年3月31日)

車種	台数	管轄
普通自動車(A)	827台	自動車検査登録情報協会
小型自動車	1,542台	
内 三輪以上(B)	1,454台	自動車検査登録情報協会
内 二輪(小型二輪)	88台	自動車検査登録情報協会
軽自動車	4,807台	
内 三輪以上(C)	4,687台	八丈町
内 二輪(軽二輪)	120台	八丈町
大型特殊自動車	159台	自動車検査登録情報協会
小型特殊自動車	123台	八丈町
原動機付自転車	566台	八丈町
計	8,024台	
平均保有台数	1.18台/人	1.98台/世帯

■八丈町都市計画区域

1972年2月22日付東京都知事に申請
1973年1月5日 全域を都市計画区域
(区域区分非設定)に指定

■都道と町道 (2025年4月1日)

	都道	町道
延長	59,250m	428,605m
面積	725,478㎡	1,483,558㎡
舗装率	100%	42.16%

※東京都八丈支庁及び八丈町調べ

■都市計画道路 (2025年4月1日)

八丈都市計画道路3・4・1号 底土・空港・八重根線		
延長	約7,352m	
幅員	18m	
交通広場	底土	約6,600㎡
	八重根	約5,200㎡
都市計画決定日	1979年3月29日	
延伸決定日	1989年3月20日	

区間	事業認可日	認可区間	完成年度
第1期	1980年1月16日	空港～倉の坂交差点 2,062m	1986年度
第2期	1986年6月19日	倉の坂交差点～底土交通広場 1,690m	1999年度
第3期	1989年10月25日	八重根交通広場～西見交差点 1,960m	2003年度
第4期	1995年3月1日	西見交差点～空港 1,640m	2011年度

※東京都八丈支庁調べ

■公園と児童遊園地 (2025年4月1日)

施設名	管理者	面積	備考
東京都立八丈植物公園	東京都	224,068㎡	散歩、休息、遊戯鑑賞
底土園地	東京都	987㎡	散歩、休息、遊戯
底土野営場	東京都	13,145㎡	野営、炊事、休息
南原園地	東京都	8,600㎡	散歩、休息
大潟浦園地	東京都	12,232㎡	散歩、休息、遊戯
登龍園地	東京都	1,851㎡	散歩、休息
大賀郷園地	東京都	48,448㎡	散歩、休息、遊戯
護神山公園(護神山緑地)	八丈町	12,438㎡	都市計画緑地 散歩、休息
底土海浜公園	八丈町	14,720㎡	都市計画公園 散歩、休息
八丈プラザ公園	八丈町	26,016㎡	都市計画公園、野営 炊事、散歩、休息
南原スポーツ公園	八丈町	59,797㎡	都市公園、 サッカー場、野球場
神湊児童遊園地	八丈町	1,447㎡	散歩、休息、遊戯
稲葉児童遊園地	八丈町	2,128㎡	散歩、休息、遊戯
大里児童遊園地	八丈町	730㎡	散歩、休息、遊戯
樫立児童遊園地	八丈町	1,484㎡	散歩、休息、遊戯

※東京都八丈支庁及び八丈町調べ

■八丈島空港の施設状況 (2025年4月1日)

種別	地方管理空港		
供用開始日	1962年5月1日		
政令指定日	1958年12月25日		
空港の位置	北緯	33° 06'51"	
	東経	139° 47'00"	
	標高	91.7 m	
飛行場用地	総面積	762,554㎡	
	国有地	335,401㎡	
	所有地	427,153㎡	
対象機種	エアバス 320-271N		
	ボーイング 737-800		

基本施設	滑走路	着陸帯	誘導路	エプロン
	延長 2,000m 幅員 45m SIWL 24ト (舗装厚 30cm)	延長 2,120m 幅員 150m	延長 85m 幅員 23m	面積 15,300㎡ 3パース
ターミナルビル	飛行場灯火			
3階建 延床面積 3,975㎡	飛行場灯台、簡易式進入灯、進入角指示灯、進入路指示灯、滑走路灯、滑走路末端灯、滑走路末端識別灯、滑走路中心線灯、過走帯灯、誘導路灯、誘導路中心線灯、風向灯、エプロン灯			

※東京都八丈支庁調べ

■港湾施設 (2025年4月1日)

種類	港名	管理者	設立年月日	対象船舶	港湾施設	備考
地方港湾	神湊港(底土港)	東京都	1953年3月31日	小型船 500ト～5,000ト	岸壁(-6.0~7.5m) 310m 船客待合所 一棟 輸送管設備 一式 夜間荷役照明 一式 船揚場 1,320㎡ 荷捌用地 11,270㎡	神湊港(底土)船客待合所 2014年7月1日供用開始
	八重根港	東京都	1953年3月31日	500ト～5,000ト	岸壁(-6.0~7.5m) 230m 船客待合所 一棟 輸送管設備 一 夜間荷役照明 一 船揚場 一 荷捌用地 1,399㎡	八重根港船客待合所 2012年2月1日供用開始
避難港	洞輪沢港					1954年7月2日指定

※東京都八丈支庁調べ

住宅・治安 HOUSING / SAFETY

■町営住宅の現況 (2025年3月31日)

地域	団地名	構造	戸数(戸)			
			間取り別			計
			1K,1DK,1LDK	2K,2DK,2LDK	3K,3DK,3LDK	
三根	群ヶ平第2団地	耐火			16	16
	中道団地	簡耐・耐火	13	36	15	64
	富士見団地	耐火	5	10	8	23
	神湊第1団地	耐火	24			24
	神湊第3団地	耐火	11	6	6	23
	桜平団地	耐火	13	8	8	29
	新道団地	耐火	2	8	2	12
	丘里団地	耐火		12	4	16
	小計	8団地		68	80	59
大賀郷	原山団地	耐火		6	6	12
	八蔵団地	耐火	6		48	54
	寺山団地	耐火	11	7	20	38
	八重根団地	耐火	12			12
小計	4団地		29	13	74	116
榎立	湯浜団地	簡耐			8	8
	康政里住宅	木造			2	2
	東六里住宅	木造			6	6
	康政里第2住宅	木造			6	6
	江能里住宅	木造			3	3
	小計	5団地		0	0	25
中之郷	上浦団地	簡耐			8	8
	中之郷団地	耐火	5	2	8	15
	粥倉住宅	木造			2	2
	粥倉第2住宅	木造			2	2
	藍ヶ里住宅	木造			4	4
	尾越住宅	木造			2	2
	尾越第2住宅	木造			4	4
	中里住宅	木造			2	2
	三原住宅	木造			4	4
	三原第2住宅	木造			1	1
	藍ヶ江住宅	木造			2	2
	上浦住宅	木造			2	2
小計	12団地		5	2	41	48
末吉	末吉団地	耐火	2	2	4	8
	瀬戸団地	耐火	8	2	5	15
	神子尾住宅	木造			2	2
	道ヶ沢住宅	木造			2	2
	名古屋住宅	木造			2	2
小計	5団地		10	4	15	29
合計	34団地		112	99	214	425

■警察署の概要 (2025年4月1日)

区分	設置数	職員数
本署	1か所	32人
駐在所	7か所	7人

※警視庁八丈島警察署調べ

■少年事案取り扱い件数(刑法犯のみ)

(2024年1月~12月)

罪種	件数
粗暴犯	0件
窃盗	4件
その他特別法犯	1件
計	5件

※警視庁八丈島警察署調べ

■犯罪件数

(2024年1月~12月)

罪種	件数
凶悪犯	0件
粗暴犯	4件
盗犯	3件
知能犯	2件
その他	4件
計	13件

※警視庁八丈島警察署調べ

■民有家屋などの棟数 (2025年1月1日)

区分	棟数	木造	木造以外	総数
		平均床面積	平均床面積	
個人	棟数	3,925棟	1,072棟	4,997棟
	平均床面積	82.7㎡	106.1㎡	87.7㎡
法人	棟数	280棟	393棟	673棟
	平均床面積	90.6㎡	270.6㎡	195.7㎡
合計	棟数	4,205棟	1,465棟	5,670棟
	平均床面積	83.2㎡	150.2㎡	100.5㎡

※固定資産課税台帳調べ

■消防団などの状況 (2025年4月1日)

区分	人数(人)								総数	
	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機能別団員		
消防団	本部	1	2	0	0	1	1	13	0	18
	三根	0	0	1	1	7	11	21	14	55
	大賀郷	0	0	1	1	6	19	24	14	65
	榎立	0	0	1	1	4	9	9	9	33
	中之郷	0	0	1	1	5	12	3	14	36
	末吉	0	0	1	1	4	6	1	8	21
	計	1	2	5	5	27	58	71	59	228
	消防本部	職員 24人								

■消防施設など (2025年4月1日)

区分	施設数(箇所)	施設数(箇所)					総数
		三根	大賀郷	榎立	中之郷	末吉	
防火水槽	40㎡以上	77	70	21	22	20	210
	40㎡未満	2	5	0	1	1	9
消火栓		3	0	0	1	0	4
詰所		1	1	1	1	1	5
分所		0	0	0	0	0	0
器具置場		1	0	0	0	1	2

■消防車両の状況

(2025年4月1日)

種類	台数
消防ポンプ自動車	7台
指揮車	2台
照明電源車	2台
救急車	2台
可搬ポンプ	3台
計	16台

■原因別救急出動件数

(2024年度)

事故種別	件数
火災事故	1件
自然災害	0件
水難	3件
交通事故	16件
労働災害	10件
運動競技	2件
一般負傷	88件
加害	0件
自損行為	7件
急病	333件
転院搬送	49件
その他	7件
計	516件

■交通事故件数 (2024年1月~12月)

件数	155件
内、飲酒が原因のもの	0件

※警視庁八丈島警察署調べ

■一般会計決算(純計) (2024年度)

決算収支の状況	歳入総額(A)	95億6,993万円
	歳出総額(B)	93億1,267万5千円
	歳入歳出差引額(A-B)(C)	2億5,725万5千円
	翌年度へ繰越すべき財源(D)	6,791万5千円
	実質収支(C-D)(E)	1億8,934万円
	単年度収支(F)	-9,405万7千円
	積立金(G)	0円
	繰上償還額(H)	0円
	積立金取崩額(I)	0円
	実質単年度収支(F+G+H-I)(J)	-9,405万7千円
指数等	基準財政需要額	36億7,782万円
	基準財政収入額	9億8,930万1千円
	標準財政規模	39億3,358万円
	財政力指数	0.272
	単年度	0.269
経常収支比率	91.3%	

■特別会計決算 (2024年度)

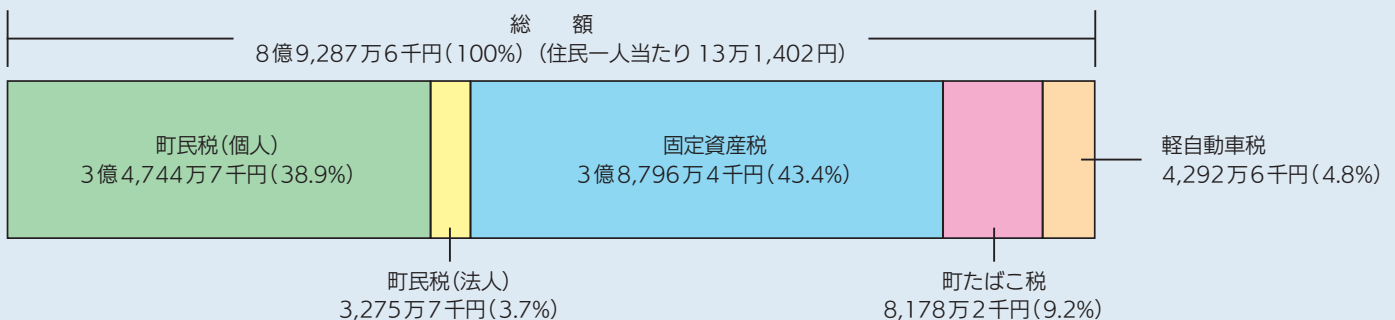
会計別	歳入総額(A)	歳出総額(B)	歳入歳出差引額(A-B)
介護保険	11億1,148万8千円	10億1,935万2千円	9,213万6千円
国民健康保険	10億9,268万3千円	10億6,696万5千円	2,571万8千円
後期高齢者療養	2億5,235万円	2億5,226万8千円	8万2千円

■企業会計決算 (2024年度)

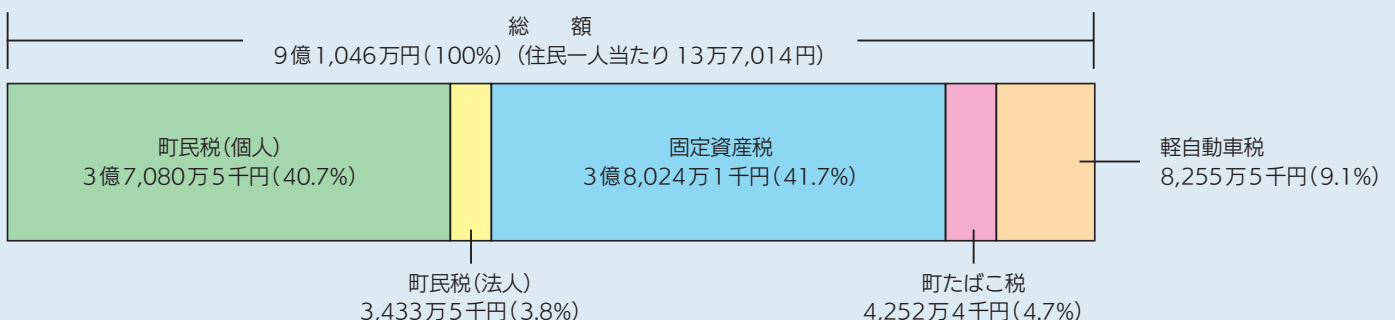
会計別	総収益(A)	総費用(B)	当年度純利益(損失)(A-B)
水道事業	5億5,528万4千円	4億7,923万2千円	7,605万2千円
一般旅客自動車運送事業	1億6,444万2千円	1億6,711万1千円	-266万9千円
病院事業	15億4,759万3千円	15億2,595万1千円	2,164万2千円
浄化槽設置管理事業	4,652万5千円	5,032万6千円	-380万1千円

※浄化槽設置管理事業は、2021年度より、特別会計から企業会計へ移管

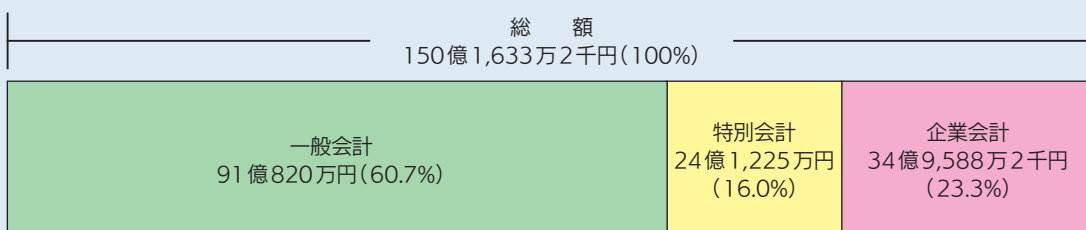
■税目別町税収入決算額 (2024年度) ※住民一人当たりの金額は、2024年4月1日時点の人口を基に算出



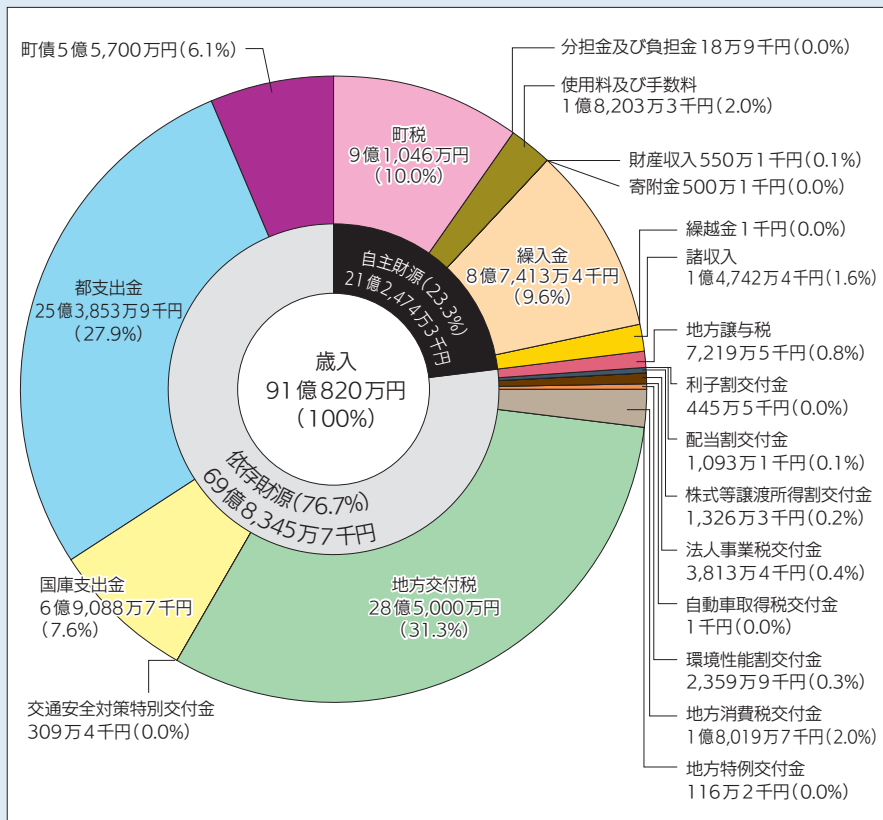
■税目別町税収入予算額 (2025年度) ※住民一人当たりの金額は、2024年4月1日時点の人口を基に算出



■当初予算 (2025年度)



■一般会計歳入予算額(当初予算) (2025年度)



■特別会計(当初予算) (2025年度)

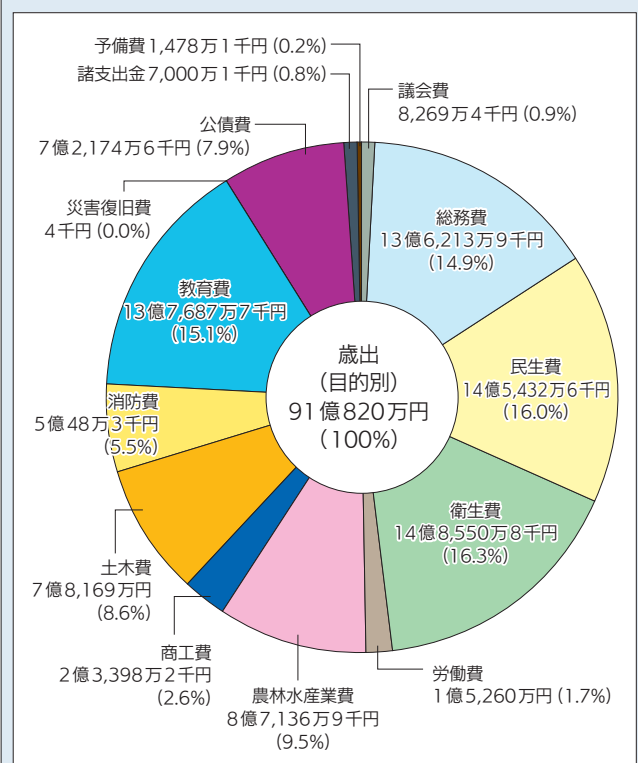
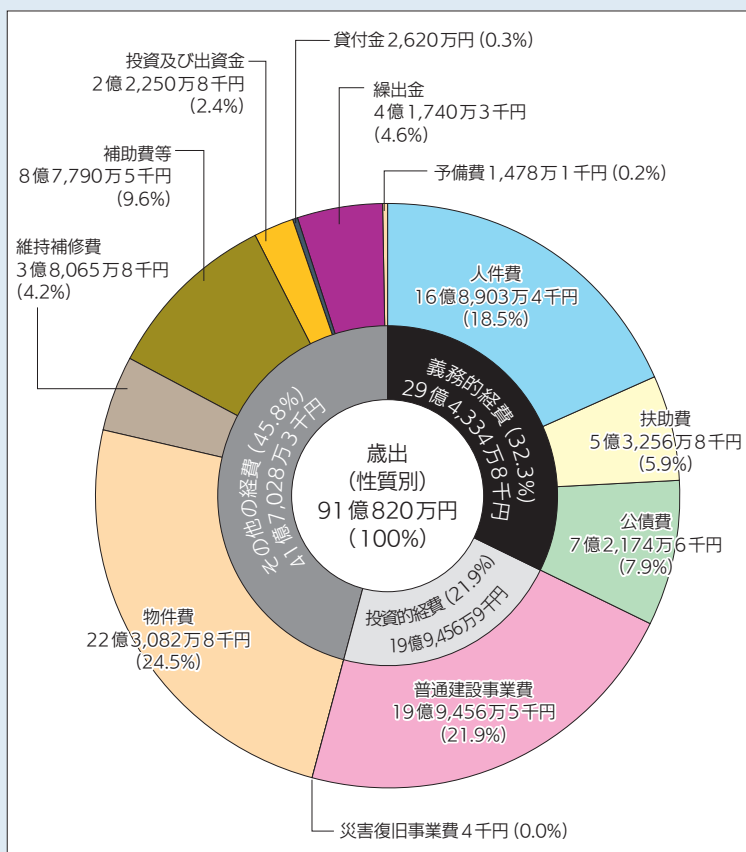
会計別	当初予算額
介護保険	10億6,643万5千円
国民健康保険	10億8,935万6千円
後期高齢者医療	2億5,645万9千円

■企業会計予算額(当初予算)

(2025年度)

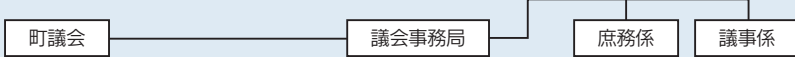
会計別	当初予算額
水道事業	11億9,459万5千円
一般旅客自動車運送事業	2億230万2千円
病院事業	19億8,443万8千円
浄化槽設置管理事業	1億1,454万7千円

■一般会計歳出予算額(当初予算) (2025年度)

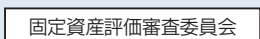
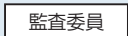
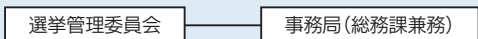
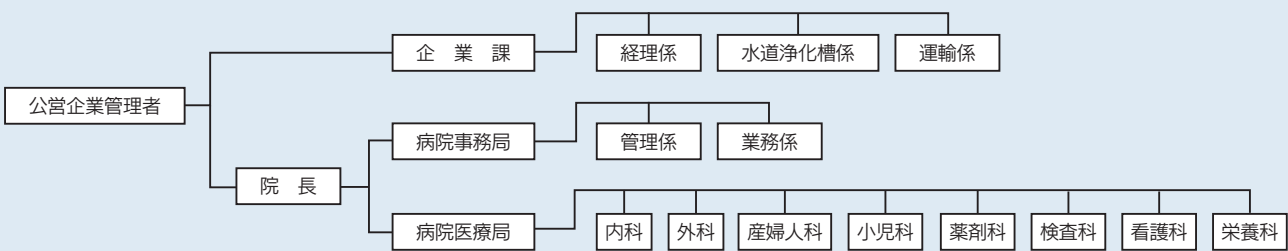
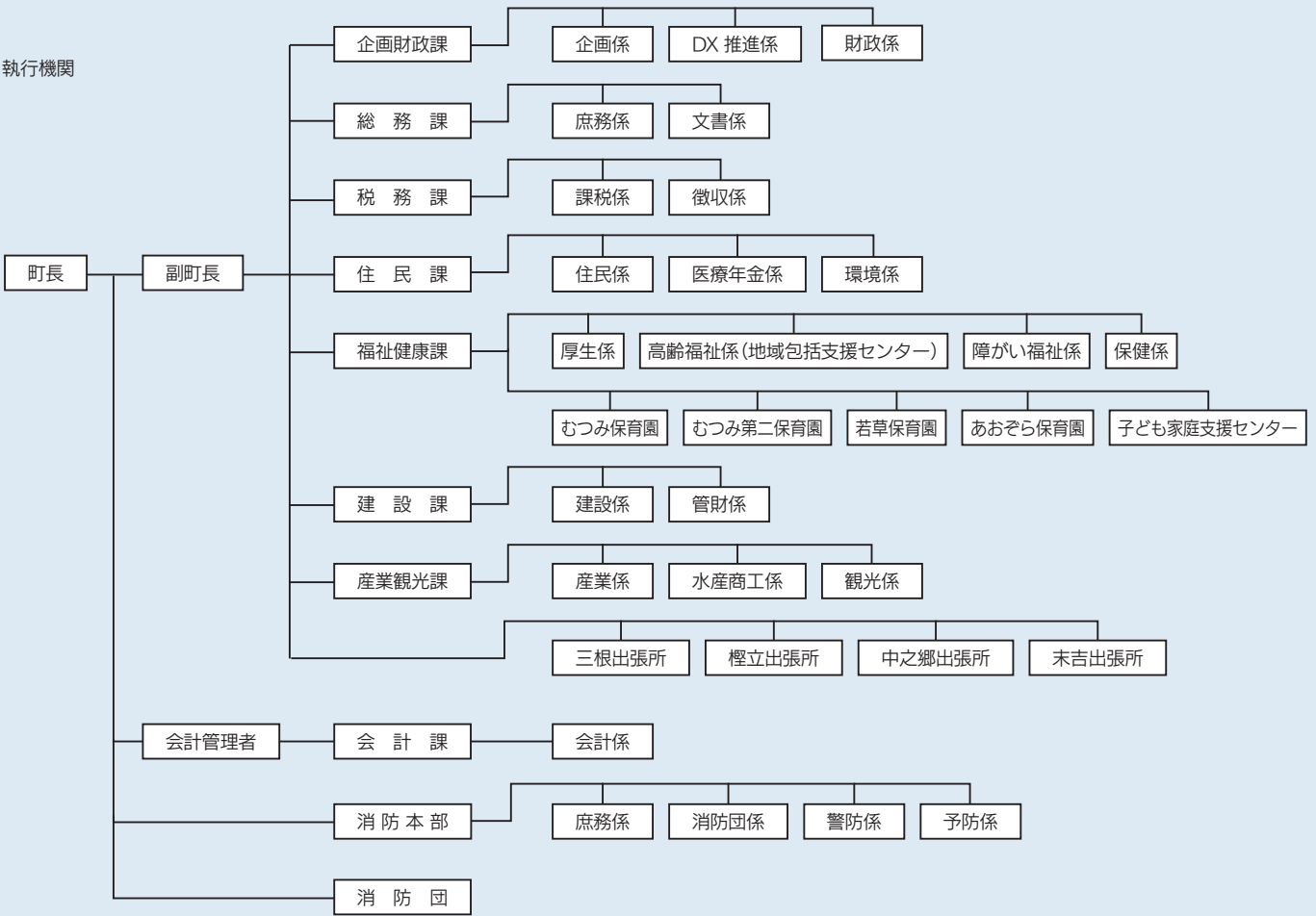


■八丈町機構図 (2025年4月1日現在)

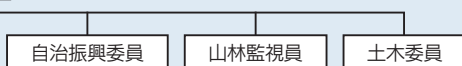
■議決機関



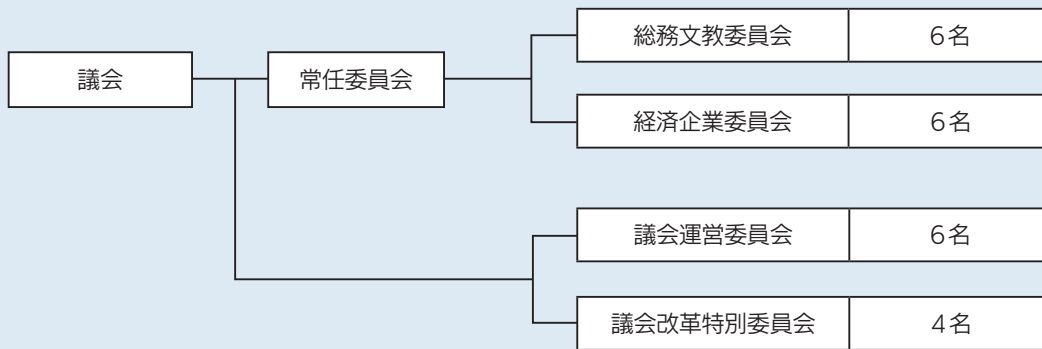
■執行機関



(専門機関)



■ 議会構成 (2025年11月1日)



■ 党派別議員数 (2025年11月1日)

党派	人数
自由民主党	1名
公明党	2名
無所属	9名
計	12名

■ 町議会会議開催状況 (2024年1月～12月)

会議名	回数	
本会議	定例会	4回
	臨時会	1回
総務文教委員会	3回	
経済企業委員会	3回	
議会運営委員会	6回	
議会改革特別委員会	1回	
全員協議会	7回	
総務文教委員協議会	1回	
経済企業委員協議会	1回	

■ 町長提出付議事件件数 (2024年1月～12月)

種類	件数(件)					
	原案可決	修正可決	否決	継続審査	審議未了	撤回
地方自治法第96条1項議決事件	条例(1号)	16	0	0	0	0
	予算(2号)	38	0	0	0	0
	決算(3号)	8	0	0	0	0
	4号から14号までの議案	18	0	0	0	0
地方自治法第96条1項15号及び96条2項を含むその他全ての議案	21	0	0	0	0	0
専決処分議案(地方自治法第179条)	5	0	0	0	0	0
専決処分議案(地方自治法第180条第2項)	0	0	0	0	0	0

八丈町民憲章

青い海原に囲まれた緑の島山の美しい自然と、古い歴史に恵まれたわたしたちは、この八丈島に住むことを誇りとし、八丈町の限りない発展と、明るく平和な町づくりをすすめることを願い、町民ひとりひとりの道しるべとして、この町民憲章を定めます。
[昭和59年10月1日施行]

わたしたち八丈町民は

- 郷土を愛し、環境をととのえ、みどり豊かな町をつくりましょう。
- お年寄りを大切にし、子供たちが健やかに育つ、あたたかい町をつくりましょう。
- 伝統をととび、教養を深め、文化の香り高い町をつくりましょう。
- はたらくことを喜び、産業の発展につくし、いきいきとした町をつくりましょう。
- きまわりを守り、互いに助け合い、人情味あふれる明るい町をつくりましょう。

表紙写真 八丈島フォトコンテスト2025 八丈町長賞：小野寺雄也

東京都八丈町勢要覧「はちじょう2025」

令和8年3月 印刷・発行



編集・発行

八丈町企画財政課企画係
東京都八丈島八丈町大賀郷2551番地2
電話 04996-2-1120
URL <https://www.town.hachijo.tokyo.jp>

デザイン・印刷

ハスネ WebDesign
東京都八丈島八丈町大賀郷1570-5
info@hasne.net